

# HIV 感染症治療薬共同使用成績調査

## 11 年次報告書

(調査開始 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

平成 20 年 11 月

HRD 共同調査協議会

アボットジャパン株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

大正製薬株式会社

田辺三菱製薬株式会社

日本たばこ産業株式会社

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

萬有製薬株式会社

ファイザー株式会社

ブリistol・マイヤーズ株式会社

ヤンセン ファーマ株式会社

# HIV 感染症治療薬共同使用成績調査

## 11 年次報告書

(調査開始 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

HIV 感染症治療薬(抗 HIV 薬及び HIV 関連疾患治療薬) 共同使用成績調査(以下、本調査)へご協力頂きありがとうございました。

本調査にて収集された当該薬剤の有効性・安全性についての情報を医療の現場にフィードバックするため、11 年次(調査開始～平成 20 年 3 月 31 日)までの結果をまとめた小冊子を作成いたしました。

## 1. 調査方法

本調査は、契約時に投薬中の、あるいは調査期間中に投薬を開始した症例について登録頂き、患者背景、薬剤の投与状況、併用療法、患者の転帰、有害事象(副作用、臨床検査値の異常変動、新たに発現した日和見感染症等を含む)、有害事象と疾患や薬剤との関連性、臨床経過に関するコメント、臨床経過及び臨床検査値の推移等の項目について調査開始から平成 20 年 3 月 31 日の期間継続的に調査した。

## 2. 調査対象症例

本調査は、調査にご協力頂いた施設(平成 12 年 4 月 1 日より特定施設 30 施設)において、HIV 感染症及び日和見感染症治療薬を含む下記再審査品目の HIV 感染症治療薬(抗 HIV 薬及び HIV 関連疾患治療薬)が処方される全ての症例を対象とした。併用された HIV 感染症治療薬に関しては、治験期間も含め全て(ドキシル注 20mg については、共同調査に参加をした 2007 年 4 月 1 日以降)の投与期間を調査対象とした。

## 3. 調査対象薬剤

### HIV 感染症治療薬の共同使用成績調査に合意している 10 社の薬剤

(2008 年 3 月現在再審査中の市販薬剤)

商品名	薬剤名(略号)	再審査期間
クラリス錠・ドライシロップ	クラリスロマイシン	1998 年 9 月～2008 年 9 月
クラリシッド錠・ドライシロップ	クラリスロマイシン	1998 年 9 月～2008 年 9 月
ビラミュン錠	ネビラピン(NVP)	1998 年 11 月～2008 年 11 月
ザイアジエン錠	硫酸アバカビル(ABC)	1999 年 9 月～2009 年 9 月
ストックリンカプセル 200	エファビレンツ(EFV)	1999 年 9 月～2009 年 9 月
レスクリプター錠 200mg	メシル酸デラビルジン(DLV)	2000 年 2 月～2010 年 2 月
カレトラソフトカプセル・リキッド	ロピナビル(LPV)・リトナビル(RTV)	2000 年 12 月～2010 年 12 月
ジスロマック錠 600mg	アシスロマイシン	2001 年 12 月～2011 年 12 月
レイアタツカプセル 150mg,200mg	硫酸アタザナビル(ATV)	2003 年 12 月～2013 年 12 月
ビリアード錠 300mg	フマル酸テノホビルジソプロキシル(TDF)	2004 年 3 月～2014 年 3 月
バリキサ錠 450mg	バルガンシクロビル塩酸塩	2004 年 11 月～2014 年 11 月
レクシヴァ錠 700	ホスアンプレナビル(fAPV)	2004 年 12 月～2014 年 12 月
エブジコム錠	ラミブジン(3TC)・硫酸アバカビル(ABC)	2004 年 12 月～2014 年 12 月
エムトリバカプセル 200mg	エムトリシタピン(FTC)	2005 年 3 月～2015 年 3 月
ツルバダ錠	エムトリシタピン(FTC)・ フマル酸テノホビルジソプロキシル(TDF)	2005 年 3 月～2015 年 3 月
ドキシル注 20mg	ドキシルピシリン塩酸塩	2007 年 1 月～2017 年 1 月
プリシスタ錠 300mg	ダルナビル(DRV)	2007 年 11 月～2017 年 11 月

#### (2008年3月現在再審査が終了している市販薬剤)

商品名	薬剤名(略号)	再審査期間
ハビッド錠 0.375	ザルシブリン(ddC)	1996年4月～2006年4月
エビビル錠	ラミブジン(3TC)	1997年2月～2007年2月
コンビル錠	ジドブジン(AZT)・ラミブジン(3TC)	1999年6月～2007年2月
クリキシンカプセル	硫酸インジナビル(IDV)	1997年3月～2007年3月
点滴静注用ホスカビル	ホスカルネットナトリウム 水和物	1997年3月～2007年3月
ゼリットカプセル	サニルブジン(d4T)	1997年7月～2007年7月
デノシンカプセル	ガンシクロビル	1997年7月～2007年7月
インビラーゼカプセル	メシル酸サキナビル(SQV-HGC)	1997年9月～2007年9月
フォトヘイスカプセル	サキナビル(SQV-SGC)	2000年4月～2007年9月
ノービアカプセル・リキッド・ソフトカプセル	リトナビル(RTV)	1997年11月～2007年11月
ビラセプト錠	メシル酸ネルフィナビル(NFV)	1998年3月～2008年3月

#### 4. 解析対象症例

本調査の解析は、平成20年8月20日までに調査票を回収し、かつ情報提供の承諾を頂いている症例(4,235例)の内、適応外の症例(HIV感染症以外の86例)を除外した症例を使用実態調査解析の対象(4,149例)とした。

安全性及び有効性に関する解析は、上記4,149症例の内、調査票内容の確定(固定)した症例のみを対象とした。解析対象は4,125例であった。その内訳は抗HIV薬使用症例(HIV感染症の適応)が4,038例、CMV網膜炎治療薬(デノシンカプセル、ハリキサ錠450mg)使用症例が171例、MAC治療薬(クラリスロマイシン、ジスロマック600mg)使用症例が510例であり、解析除外(対象の抗HIV薬・CMV網膜炎治療薬・MAC治療薬未処方症例)は79例であった。

回収調査票数	:	17,714冊
回収症例数	:	4,235例
・使用実態集計解析対象症例数	:	4,149例
除外症例数(適応外の症例)	:	86例
・安全性・有効性解析対象症例数	:	4,125例
抗HIV薬使用症例数	:	4,038例
CMV網膜炎治療薬使用症例数	:	171例
MAC治療薬使用症例数	:	510例
除外症例数(抗HIV薬等未処方)	:	79例

#### 5. 解析結果

本調査の11年次までの症例背景を表1に示す。

本調査では、HIV感染症治療薬の使用実態の把握を目的に、使用された薬剤の組合せの延べ症例数(薬剤の切り替えなどで同一症例の中で異なる組合せがある場合、別症例として集計)及び平均併用日数の集計を行った(図1)。

抗HIV薬における結果を表2-1-1および2-2-1に示す。使用頻度が最も高かった薬剤の組合せは、調査開始から11年次までの全期間(表2-1-1)でレトロビル、エビビルの組合せ、11年次期間(表2-2-1)では、

ツルバダ、ストックリンの組合せであった。

次に、11年次期間において使用頻度の高い上位10組の組合せ及び上位10組に含まれなかった薬剤のうち選抜した組合せ5組(組合せNo.12、No.17、No.25、No.51 およびレトロビル+ヴァイデックス+レスクリプターの併用例)について、副作用の発現状況及び安全性に影響を与えると考えられる要因(性別、年齢、人種、抗HIV薬以外の併用薬有無、併用療法有無、合併症有無、肝障害、肝炎、血友病、血友病分類、既往歴有無、アレルギー-有無)について、集計解析を行った(表3~32)。なお、副作用用語についてはICH国際医薬用語集(MedDRA/J Ver11.0)にて集計解析を行った。また、薬剤別の重篤な副作用の発現状況の一覧を掲載した。

さらに、各組合せ毎のCD4陽性リンパ球数、血漿中HIV-RNAコピ-数についてグラフ化を行った(図2~15)。なお、レトロビル+ヴァイデックス+レスクリプターの組合せは投与期間中の検査値がないため作成は行わなかった。

また、HIV関連疾患治療薬について、使用された薬剤と患者全体の投与日数の集計を行った。その結果を表2-1-2および2-2-2に示す。また、CMV網膜炎治療薬については使用された症例数171例に対して、MAC感染症治療薬については使用された症例数510例に対して、安全性に影響を与えると考えられる要因別の副作用発現状況についてのみ集計を行った(表34、36)。

#### 今回集計を行った薬剤の組合せ

組合 1	ツルバダ+ストックリン
組合 2	ツルバダ+ノーピア+レイアタツ
組合 3	エピビル+ピリアード+ストックリン
組合 4	エプジコム+ノーピア+レイアタツ
組合 5	ツルバダ+カレトラ
組合 6	エピビル+ピリアード+ノーピア+レイアタツ
組合 7	エプジコム+ストックリン
組合 8	レトロビル+エピビル+ストックリン
組合 9	コンピビル+ストックリン
組合 10	レトロビル+エピビル+カレトラ
組合 12	エピビル+ザイアジェン+カレトラ
組合 17	ツルバダ+ノーピア+レクシヴァ
組合 25	エピビル+ザイアジェン+ピラミューン
組合 51	ピリアード+エムトリバ+ストックリン
	レトロビル+ヴァイデックス+レスクリプター

#### 6. まとめ

抗HIV薬使用患者4,235例について、薬剤の組合せごとに集計解析(使用実態解析の対象は4,149例)を行った。

使用実態の検討では、承認時期が遅い薬剤および再審査期間満了薬剤もあるため、11年次までの全調査期間と11年次調査期間において、使用実態(薬剤の組合せ)に偏りが見られた。

安全性の検討では、集計解析を行った15組の組合せの内、組合せによっては患者背景のいくつかの要因について副作用発現症例率に有意差が認められた。有意差が認められた要因は、性別、人種、抗HIV薬以外の併用薬有無、併用療法有無、血友病分類、既往歴有無及びアレルギー(特異体質)有無であったが、交絡因子が多く原因については不明である。

有効性の検討では、CD4 陽性リンパ球数については、各組合せで、治療経験が無い患者 (naïve)、及び治療経験が有る患者 (experienced) の何れの群においても投与期間に伴い維持または増加の傾向を示した。血漿中 HIV-RNA コピー数については、多くの組合せにおいて、投与初期の減少効果が大きく、その後低いレベルを維持していることが確認された。0 ヶ月時の検査値が 50 症例以上と併用例が多い症例で、3 剤併用の組合せ (エビビル+ビリアード+ストックリン、レトロビル+エビビル+ストックリン)、合剤を含む 2 剤併用の組合せ (ツルバダ+ストックリン、コンビビル+ストックリン) 及び合剤を含む 3 剤併用の組合せ (ツルバダ+ノービア+レイアタツ、エブリコム+ノービア+レイアタツ、レトロビル+エビビル+カレトラ、エビビル+ザイアジェン+カレトラ) は、CD4 陽性リンパ球数の増加、血漿中 HIV-RNA コピー数の減少及び検出限界以下症例の増加傾向から、3 剤併用、合剤を含む 2 剤併用及び合剤を含む 3 剤併用における治療効果は顕著であり、効果も持続性がみられている。

CMV 網膜炎治療薬および MAC 感染症治療薬については、11 年次までの使用症例数がそれぞれ 171 例、510 例となっており、全体の患者数に占める割合としてはそれぞれ 4.0%、12.0%であった。

## 図表説明

表 1.	抗 HIV 薬使用患者(HIV 感染症)背景	
表 1a.	生存・死亡者内訳	
図 1.	併用期間の考え方	
表 2-1-1.	抗 HIV 薬 使用実態表	(投与期間:調査開始～2008年 3月31日)
表 2-1-2.	HIV 関連疾患治療薬 使用実態表	(投与期間:調査開始～2008年 3月31日)
表 2-2-1.	抗 HIV 薬 使用実態表	(投与期間:2007年 4月1日～2008年 3月31日)
表 2-2-2.	HIV 関連疾患治療薬 使用実態表	(投与期間:2007年 4月1日～2008年 3月31日)
表 3.	組合 1 ツルバダ+ストックリン併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 4.	組合 1 ツルバダ+ストックリン併用例	副作用発現状況
表 5.	組合 2 ツルバダ+ノーピア+レイアタツ併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 6.	組合 2 ツルバダ+ノーピア+レイアタツ併用例	副作用発現状況
表 7.	組合 3 エピビル+ピリアード+ストックリン併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 8.	組合 3 エピビル+ピリアード+ストックリン併用例	副作用発現状況
表 9.	組合 4 エブジコム+ノーピア+レイアタツ併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 10.	組合 4 エブジコム+ノーピア+レイアタツ併用例	副作用発現状況
表 11.	組合 5 ツルバダ+カレトラ併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 12.	組合 5 ツルバダ+カレトラ併用例	副作用発現状況
表 13.	組合 6 エピビル+ピリアード+ノーピア+レイアタツ併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 14.	組合 6 エピビル+ピリアード+ノーピア+レイアタツ併用例	副作用発現状況
表 15.	組合 7 エブジコム+ストックリン併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 16.	組合 7 エブジコム+ストックリン併用例	副作用発現状況
表 17.	組合 8 レトロビル+エピビル+ストックリン併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 18.	組合 8 レトロビル+エピビル+ストックリン併用例	副作用発現状況
表 19.	組合 9 コンビビル+ストックリン併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 20.	組合 9 コンビビル+ストックリン併用例	副作用発現状況
表 21.	組合 10 レトロビル+エピビル+カレトラ併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 22.	組合 10 レトロビル+エピビル+カレトラ併用例	副作用発現状況
表 23.	組合 12 エピビル+ザイアジェン+カレトラ併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 24.	組合 12 エピビル+ザイアジェン+カレトラ併用例	副作用発現状況
表 25.	組合 17 ツルバダ+ノーピア+レクシヴァ併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 26.	組合 17 ツルバダ+ノーピア+レクシヴァ併用例	副作用発現状況
表 27.	組合 25 エピビル+ザイアジェン+ピラミューン併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 28.	組合 25 エピビル+ザイアジェン+ピラミューン併用例	副作用発現状況
表 29.	組合 51 ピリアード+エムトリバ+ストックリン併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 30.	組合 51 ピリアード+エムトリバ+ストックリン併用例	副作用発現状況
表 31.	レトロビル+ヴァイデックス+レスクリプター併用例	患者背景別副作用発現症例率
表 32.	レトロビル+ヴァイデックス+レスクリプター併用例	副作用発現状況
表 33.	患者背景要因(CMV 感染症治療薬)	
表 34.	CMV 感染症治療薬投与例	患者背景別副作用発現率
表 35.	患者背景要因(MAC 感染症治療薬)	
表 36.	MAC 感染症治療薬投与例	患者背景別副作用発現症例率
表 37-1.	抗 HIV 薬 薬剤別重篤な副作用・感染症の発現状況一覧表	

表 37-2. HIV 関連疾患治療薬 薬剤別重篤な副作用・感染症の発現状況一覧表

図 2~15 組合せ別(平均値)グラフ、評価及び考察\*

CD4 陽性リンパ球数(上段)

血漿中 HIV-RNA コピー数(下段)

投与開始時点を0ヶ月として、それ以後3ヶ月ごとに平均値・標準偏差を算出した。

(投与後月数は前後±30日以内での検査値を平均する)

投与開始(直前)時点での検査値がある症例を対象とし、以降の推移を示した。

CD4、HIV-RNA コピー数について値を治療経験が無い患者(naïve)\*\*、及び治療経験が有る患者(experienced)\*\*の2層に分けて平均値・標準偏差を求めた。

\* : 評価及び考察は、患者背景(年齢、既往歴、前治療歴等)及び副作用発現傾向等の要因を除いた相対的なものであり、投与開始症例数(0ヶ月時)が20症例以上の併用例について評価した。

\*\* : 「治療経験が無い患者(naïve)」「治療経験が有る患者(experienced)」

治療経験が無い患者とは、本調査開始時に初めて抗 HIV 薬が投与された患者を示し、最初の抗 HIV 薬剤組合せの投与開始日から薬剤が変更または中止されるまでの区間について集計する。

治療経験が有る患者とは、本調査開始時に既に抗 HIV 薬が投与されていた患者を示し、最初の抗 HIV 薬剤組合せの投与開始日から薬剤が変更または中止されるまでの区間、及び治療経験が無い患者の区間の次区間、即ち2番目の抗 HIV 薬剤組合せの投与開始日から薬剤が変更または中止されるまでの区間について集計する。

ただし、治療経験が無い患者は、治療歴が明確に把握できないため等の理由で必ずしも正確ではない症例も含まれる。



HRD共同調査協議会

アボットジャパン株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

大正製薬株式会社

田辺三菱製薬株式会社

日本たばこ産業株式会社

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

萬有製薬株式会社

ファイザー株式会社

ブリistol・マイヤーズ株式会社

ヤンセン ファーマ株式会社

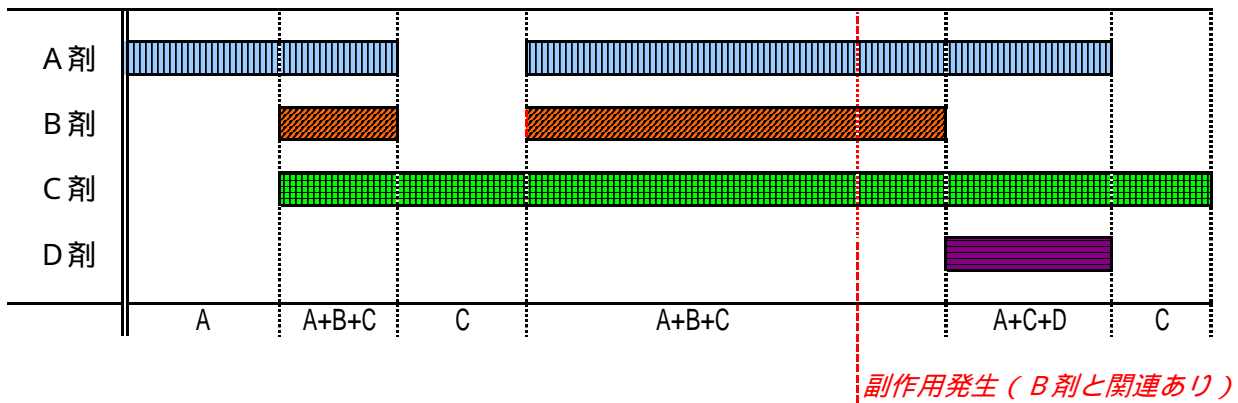
表1. 抗HIV薬使用患者(HIV感染症)背景

患者背景	症例数	分布(%)
総症例	4038	100.00
性別	男	3612
	女	426
年齢	14歳	36
	15歳 - 64歳	3920
	65歳	82
人種	日本人	3686
	その他	351
	不明・未記載	1
抗HIV薬以外の併用薬有無	無	702
	有	3336
併用療法有無	無	3250
	有	788
合併症有無	無	1265
	有	2770
	不明・未記載	3
合併症肝障害	無	2948
	有	1087
	肝炎	899
	不明・未記載	3
血友病	無	3437
	有	598
	A	455
	B	141
	不明・未記載	2
	不明・未記載	3
既往歴有無	無	1753
	有	2196
	不明・未記載	89
アレルギー(特異体質)の有無	無	2778
	有	914
	不明・未記載	346

表1a. 生存・死亡者内訳

	AIDS患者 (投与後AIDS発症)	HIV感染者	計
計	1349 ( 57)	2689	4038
生存者	1221 ( 48)	2606	3827
死亡者	128 ( 9)	83	211

図1 併用期間の考え方



上図においての組合せ

	副作用発現	
	症例数	症例数
A	1例	無
C	1例	無
C	1例	無
A+B+C	1例	無
A+B+C	1例	1例
A+C+D	1例	無

併用期間
  初回併用開始日  
 併用開始日

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤							非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤						剤数	平均日数	最小日数	最大日数					
		レトロビル	ウアイテックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エブシコム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシン	インビラセ	ノビア	ビラセプト					プロゼ	フォートヘイス	カレトラ	レイアタック	レクシガア
1	733																							2	326.1	2	3463	
2	707																								3	913.4	2	3155
3	623																								3	507.4	2	3186
4	598																								1	423.9	2	3129
5	587																								3	774.7	2	3148
6	561																								3	738.1	2	2909
7	419																								3	629.6	2	1971
8	333																								3	850.7	2	2923
9	290																								4	555.2	3	1462
10	286																								2	989.7	2	3107
11	277																								3	556.9	2	2513
12	276																								2	418.8	2	3044
13	270																								3	431.2	2	1039
14	265																								2	453.3	5	1041
15	262																								3	402.1	2	2561
16	239																								2	321.3	2	3442
17	233																								2	230.0	2	3124
18	198																								2	676.6	3	2582
19	195																								1	383.9	3	1690
20	188																								3	438.4	4	1152
21	176																								3	687.1	3	2433
22	122																								3	666.6	3	2871
23	120																								2	466.4	7	1117
24	115																								3	601.1	5	1868
25	115																								3	476.5	2	1847
26	108																								4	261.6	4	1775
27	103																								3	533.0	6	2075
28	98																								3	335.9	4	2499
29	97																								2	316.6	4	943
30	94																								3	665.4	10	3050
31	91																								3	584.3	3	2317
32	85																								2	170.8	2	1131
33	84																								4	455.2	3	2511
34	80																								3	471.8	6	2943
35	74																								3	713.7	28	2699
36	73																								1	171.2	5	1329
37	72																								1	192.4	2	728
38	71																								2	187.1	2	931
39	70																								3	331.4	2	1876
40	69																								1	94.6	2	679
41	67																								4	263.4	7	1386
42	65																								2	379.1	3	1070
43	63																								2	754.6	6	2425
44	59																								4	664.3	2	2230
45	58																								2	545.9	5	2700
46	57																								3	649.4	15	2317
47	54																								3	662.9	7	2409
48	54																								2	188.3	3	2826
49	53																								3	301.8	12	1173
50	51																								3	408.2	2	2177

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症 例 数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤 数	平均 日数	最小 日数	最大 日数		
		レトロビル	ウアイ テックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビ ル	ザイ ジェン	ビリアード	エブジコ ム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミュー ン	ストックリン	レスクリフ ター	クリキシハ ン	インビラ ゼ	ノビア	ビラセプト	プロゼ	フォートヘ イス					カレトラ	レイアタッ ツ
51	48																							3	709.4	2	2616
52	48																							4	238.7	25	897
53	42																							3	939.7	10	3069
54	42																							4	421.8	9	1240
55	39																							3	587.7	13	1475
56	38																							4	637.6	6	2931
57	38																							3	528.6	5	3073
58	38																							3	365.5	4	2808
59	38																							3	289.5	3	1283
60	37																							1	114.9	2	572
61	34																							2	667.0	19	1477
62	34																							3	404.1	22	981
63	33																							2	302.6	3	986
64	32																							3	420.6	11	1949
65	32																							3	331.7	8	1453
66	31																							3	373.8	3	2530
67	28																							2	350.9	2	3087
68	28																							2	188.6	4	706
69	27																							3	674.3	6	2128
70	27																							2	626.8	10	2544
71	27																							3	505.4	49	1388
72	27																							3	265.3	24	945
73	26																							3	675.9	3	2364
74	26																							4	474.0	7	2166
75	25																							3	322.4	2	2942
76	24																							3	567.2	6	1110
77	24																							4	462.3	14	1076
78	22																							3	531.0	3	2178
79	22																							2	299.4	2	2251
80	22																							2	244.3	2	755
81	22																							2	149.2	4	478
82	21																							2	664.1	3	2483
83	20																							3	712.2	19	2520
84	20																							3	285.2	4	1499
85	19																							3	679.9	34	2408
86	19																							2	165.1	14	1023
87	18																							3	886.2	3	2126
88	18																							3	660.2	112	2018
89	18																							3	619.9	3	1834
90	18																							3	333.4	4	1709
91	18																							2	259.6	5	867
92	18																							2	212.3	7	815
93	17																							3	798.3	12	2618
94	17																							3	553.1	7	1253
95	17																							4	486.3	2	1835
96	17																							3	273.9	11	1091
97	16																							1	370.4	2	2109
98	16																							3	362.8	7	1412
99	16																							3	289.8	35	689
100	16																							2	276.2	6	1043

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤数	平均日数	最小日数	最大日数		
		レトロビル	ウアイテックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エプジコム	エムトリバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クラキシバン	インビラゼ	ノービア	ビラセプト	プロゼ	フォートヘイス					カレトラ	レイアタック
101	15																							4	1207.8	40	1909
102	15																							3	709.1	4	1756
103	15																							3	613.7	23	1991
104	14																							3	631.2	6	1600
105	14																							2	265.8	6	1778
106	14																							3	238.7	7	976
107	14																							2	181.2	8	660
108	14																							1	128.4	2	364
109	13																							4	551.5	7	1877
110	13																							3	384.0	14	2052
111	13																							2	225.2	11	777
112	13																							1	88.7	5	736
113	12																							3	860.6	92	1883
114	12																							3	352.9	5	2030
115	12																							2	338.5	9	845
116	12																							3	251.9	10	1457
117	12																							4	206.8	22	565
118	12																							2	52.7	7	301
119	12																							1	29.3	3	192
120	11																							4	606.6	5	2958
121	11																							4	595.0	18	2033
122	11																							3	411.2	9	1821
123	11																							2	303.9	5	896
124	11																							3	203.9	16	501
125	11																							2	105.5	3	516
126	10																							2	310.0	29	550
127	10																							4	282.5	20	1301
128	10																							3	183.3	5	749
129	10																							2	172.2	12	624
130	9																							3	640.9	7	1588
131	9																							4	630.6	85	1383
132	9																							4	574.8	7	1768
133	9																							4	465.6	79	1100
134	9																							4	458.3	6	1520
135	9																							2	382.7	16	917
136	9																							3	229.1	10	581
137	9																							3	223.7	3	624
138	9																							2	125.2	2	409
139	9																							2	89.4	2	287
140	9																							1	56.9	2	202
141	9																							1	41.7	2	278
142	8																							4	948.4	62	2210
143	8																							3	619.4	21	1604
144	8																							4	451.8	14	1344
145	8																							2	380.6	27	1085
146	8																							4	339.6	43	1225
147	8																							2	292.1	5	1320
148	8																							3	246.3	56	575
149	8																							4	133.5	2	366
150	8																							2	44.1	2	143

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症 例 数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤 数	平均 日数	最小 日数	最大 日数		
		レトロビル	ウアイ テックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビ ル	ザイ ジェン	ビリアード	エブシコ ム	エムトラバ	ツルバ ダ	ビラミュー ン	ストックリン	レスクリ プター	クリキシ ン	インビラ ゼ	ノビア	ビラセプト	プロゼ	フォート ヘ イス					カレトラ	レイアタ ッ ツ
151	7																							4	704.6	3	2234
152	7																							3	694.4	94	1400
153	7																							3	446.1	28	1057
154	7																							3	377.7	6	978
155	7																							3	326.4	7	1335
156	7																							4	292.3	28	840
157	7																							2	191.4	11	490
158	7																							2	137.9	65	293
159	7																							2	49.4	22	71
160	6																							5	845.7	127	1817
161	6																							3	690.8	3	1477
162	6																							4	620.0	102	1121
163	6																							3	614.7	10	986
164	6																							2	486.7	13	1758
165	6																							4	483.3	9	1050
166	6																							3	481.3	76	912
167	6																							3	470.7	139	1023
168	6																							2	411.0	42	791
169	6																							3	311.0	23	1143
170	6																							2	275.0	34	721
171	6																							3	222.8	43	712
172	6																							2	160.8	11	623
173	6																							3	139.7	10	566
174	6																							3	135.3	36	300
175	6																							3	113.2	2	334
176	6																							3	73.7	21	153
177	6																							3	65.8	2	265
178	6																							2	25.8	2	42
179	6																							4	23.8	5	61
180	5																							4	1175.4	32	2355
181	5																							3	878.0	35	1775
182	5																							3	785.0	14	2301
183	5																							3	770.0	12	1512
184	5																							4	649.0	56	1090
185	5																							2	645.2	4	1436
186	5																							3	448.4	26	995
187	5																							3	398.8	12	1131
188	5																							4	339.2	55	661
189	5																							2	307.8	83	987
190	5																							2	243.8	24	987
191	5																							4	238.8	116	432
192	5																							4	238.4	29	492
193	5																							3	210.8	28	643
194	5																							3	184.8	42	419
195	5																							3	149.6	3	256
196	5																							3	139.0	8	302
197	5																							2	135.6	10	612
198	5																							3	115.8	7	369
199	5																							3	85.4	3	261
200	5																							4	41.0	9	120

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤					剤数	平均日数	最小日数	最大日数					
		レトロビル	ウアイテックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エブシコム	エムトリバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシハン	インビラゼ	ノビア	ビラセプト					プロゼ	フォートヘイス	カレトラ	レイアタック	レクシガア
201	4																							4	1211.5	3	2460	
202	4																								4	1044.3	27	2562
203	4																								3	687.3	35	1505
204	4																								2	642.5	3	2531
205	4																								4	581.5	2	1011
206	4																								4	580.5	11	1064
207	4																								2	569.3	14	1954
208	4																								3	514.5	22	1552
209	4																								3	502.0	7	1074
210	4																								3	477.5	5	1603
211	4																								4	469.3	63	1047
212	4																								3	443.3	68	935
213	4																								5	415.0	15	675
214	4																								4	354.8	68	738
215	4																								4	353.8	60	824
216	4																								3	351.8	197	425
217	4																								3	338.0	18	553
218	4																								2	333.5	183	448
219	4																								4	299.8	3	597
220	4																								2	295.8	10	685
221	4																								4	262.5	91	604
222	4																								3	231.8	3	609
223	4																								3	226.5	46	318
224	4																								4	185.8	14	499
225	4																								2	139.3	14	383
226	4																								3	129.0	48	253
227	4																								2	114.3	2	341
228	4																								3	74.3	2	276
229	4																								3	61.3	6	146
230	4																								3	60.0	10	98
231	4																								4	56.8	15	105
232	4																								2	44.5	2	138
233	4																								3	25.3	3	49
234	4																								2	9.0	7	14
235	3																								5	1173.0	353	2460
236	3																								4	1154.3	657	2007
237	3																								3	1022.3	55	1530
238	3																								3	986.3	300	2160
239	3																								3	954.0	116	1454
240	3																								3	916.0	651	1102
241	3																								4	909.3	4	1407
242	3																								4	903.7	70	1793
243	3																								3	799.7	231	1895
244	3																								4	794.7	2	2256
245	3																								3	694.7	10	1482
246	3																								3	660.3	342	1078
247	3																								4	653.7	8	1684
248	3																								3	644.7	398	851
249	3																								4	630.7	3	1097
250	3																								5	612.7	14	1029



表2-1-1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤数	平均日数	最小日数	最大日数			
		レトロビル	ウアイテックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エブシコム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシン	インビラセ	ノビア	ビラセプト	プロセ	フォートヘイス					カレトラ	レイアタック	レクシガア
251	3																							4	525.0	284	731	
252	3																								4	497.0	232	706
253	3																								3	494.7	2	1273
254	3																								3	444.3	14	991
255	3																								4	441.3	15	750
256	3																								3	435.0	56	951
257	3																								4	391.3	109	827
258	3																								4	380.7	9	734
259	3																								3	379.3	196	670
260	3																								3	373.3	72	777
261	3																								4	359.7	28	629
262	3																								4	322.3	85	752
263	3																								3	298.3	137	602
264	3																								3	274.7	165	476
265	3																								2	264.0	70	596
266	3																								4	256.3	16	733
267	3																								4	226.7	35	589
268	3																								4	216.0	29	542
269	3																								3	184.0	143	208
270	3																								3	183.0	18	445
271	3																								3	181.3	11	456
272	3																								4	164.3	52	374
273	3																								2	152.0	5	442
274	3																								3	116.0	11	202
275	3																								3	113.3	14	166
276	3																								4	107.7	5	274
277	3																								3	101.7	2	289
278	3																								4	92.0	13	241
279	3																								4	78.7	71	84
280	3																								1	78.3	2	223
281	3																								2	72.0	35	126
282	3																								3	57.7	6	119
283	3																								1	57.0	3	153
284	3																								3	47.0	7	106
285	3																								3	43.7	13	99
286	3																								2	39.3	3	73
287	3																								2	26.7	2	42
288	3																								4	23.7	14	36
289	3																								2	20.3	2	40
290	3																								2	15.7	14	19
291	3																								1	6.3	2	11
292	2																								3	2349.5	2095	2604
293	2																								4	1966.5	1710	2223
294	2																								3	1460.5	1414	1507
295	2																								4	1259.0	1226	1292
296	2																								4	1067.5	497	1638
297	2																								3	902.0	607	1197
298	2																								4	863.5	85	1642
299	2																								4	773.5	602	945
300	2																								4	763.5	189	1338

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤数	平均日数	最小日数	最大日数			
		レトロビル	ウアイテックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エブシコム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシン	インビラセ	ノビア	ビラセプト	プロゼ	フォートヘイス					カレトラ	レイアタック	レクシガア
301	2																							3	759.0	76	1442	
302	2																								4	737.0	43	1431
303	2																								5	721.5	2	1441
304	2																								3	696.0	643	849
305	2																								3	684.5	641	728
306	2																								5	595.0	498	692
307	2																								3	586.0	177	995
308	2																								4	578.0	574	582
309	2																								4	568.5	28	1109
310	2																								4	560.5	5	1116
311	2																								4	536.5	91	982
312	2																								4	533.0	427	639
313	2																								3	515.0	361	669
314	2																								3	461.0	369	553
315	2																								4	424.0	222	626
316	2																								3	405.5	349	462
317	2																								2	397.0	148	646
318	2																								3	388.0	232	544
319	2																								5	374.0	15	733
320	2																								4	333.5	256	411
321	2																								3	324.5	321	328
322	2																								4	302.5	118	487
323	2																								4	280.0	166	394
324	2																								4	250.5	144	357
325	2																								3	249.0	231	267
326	2																								3	247.0	28	466
327	2																								4	194.5	8	381
328	2																								3	190.0	85	295
329	2																								3	186.0	17	355
330	2																								3	178.5	54	303
331	2																								4	175.5	116	235
332	2																								3	172.0	126	218
333	2																								3	157.5	119	196
334	2																								4	144.5	43	246
335	2																								4	132.5	115	150
336	2																								2	126.0	5	247
337	2																								3	109.0	29	189
338	2																								4	106.5	57	156
339	2																								4	94.0	60	128
340	2																								6	92.5	73	112
341	2																								3	82.5	7	158
342	2																								4	78.0	30	126
343	2																								5	77.5	56	99
344	2																								4	70.0	70	70
345	2																								5	63.0	45	81
346	2																								4	60.5	45	76
347	2																								3	50.0	7	93
348	2																								3	44.0	26	62
349	2																								4	40.0	14	66
350	2																								4	38.5	7	70

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤数	平均日数	最小日数	最大日数			
		レトロビル	ウアイデックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エプジコム	エムトリバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クラキシバン	インビラゼ	ノビア	ビラセプト	プロゼ	フォートヘイス					カレトラ	レイアタック	レクソグア
351	2																							2	36.0	2	70	
352	2																								5	35.5	13	58
353	2																								3	32.5	10	55
354	2																								3	31.5	14	49
355	2																								3	23.0	5	41
356	2																								4	22.0	3	41
357	2																								2	9.0	7	11
358	2																								4	6.5	3	10
359	2																								4	6.5	4	9
360	2																								3	6.0	2	10
361	2																								6	6.0	4	8
362	2																								2	2.0	2	2
363	1																								3	2975.0	2975	2975
364	1																								5	2393.0	2393	2393
365	1																								3	2145.0	2145	2145
366	1																								6	1786.0	1786	1786
367	1																								4	1785.0	1785	1785
368	1																								2	1766.0	1766	1766
369	1																								4	1644.0	1644	1644
370	1																								3	1473.0	1473	1473
371	1																								5	1431.0	1431	1431
372	1																								3	1418.0	1418	1418
373	1																								4	1411.0	1411	1411
374	1																								5	1396.0	1396	1396
375	1																								4	1372.0	1372	1372
376	1																								4	1303.0	1303	1303
377	1																								4	1267.0	1267	1267
378	1																								4	1231.0	1231	1231
379	1																								5	1191.0	1191	1191
380	1																								4	1172.0	1172	1172
381	1																								5	1127.0	1127	1127
382	1																								5	1120.0	1120	1120
383	1																								5	1104.0	1104	1104
384	1																								3	1056.0	1056	1056
385	1																								4	1047.0	1047	1047
386	1																								4	1041.0	1041	1041
387	1																								3	1027.0	1027	1027
388	1																								4	1010.0	1010	1010
389	1																								4	995.0	995	995
390	1																								4	978.0	978	978
391	1																								3	977.0	977	977
392	1																								5	956.0	956	956
393	1																								4	954.0	954	954
394	1																								4	932.0	932	932
395	1																								5	929.0	929	929
396	1																								5	913.0	913	913
397	1																								3	895.0	895	895
398	1																								4	894.0	894	894
399	1																								4	892.0	892	892
400	1																								4	878.0	878	878

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤数	平均日数	最小日数	最大日数			
		レトロビル	ウアイテックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エブシコム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシハン	インビラゼ	ノービア	ビラセプト	プロゼ	フォートヘイス					カレトラ	レイアタック	レクシガア
401	1																							4	875.0	875	875	
402	1																								2	831.0	831	831
403	1																								4	816.0	816	816
404	1																								5	814.0	814	814
405	1																								4	813.0	813	813
406	1																								3	747.0	747	747
407	1																								4	747.0	747	747
408	1																								5	736.0	736	736
409	1																								5	731.0	731	731
410	1																								3	726.0	726	726
411	1																								3	719.0	719	719
412	1																								5	713.0	713	713
413	1																								3	712.0	712	712
414	1																								3	691.0	691	691
415	1																								4	687.0	687	687
416	1																								4	681.0	681	681
417	1																								3	647.0	647	647
418	1																								4	618.0	618	618
419	1																								5	607.0	607	607
420	1																								3	605.0	605	605
421	1																								4	589.0	589	589
422	1																								3	586.0	586	586
423	1																								4	574.0	574	574
424	1																								6	569.0	569	569
425	1																								3	568.0	568	568
426	1																								4	556.0	556	556
427	1																								4	554.0	554	554
428	1																								3	536.0	536	536
429	1																								5	529.0	529	529
430	1																								4	525.0	525	525
431	1																								3	523.0	523	523
432	1																								3	514.0	514	514
433	1																								2	504.0	504	504
434	1																								3	496.0	496	496
435	1																								3	493.0	493	493
436	1																								5	485.0	485	485
437	1																								3	483.0	483	483
438	1																								5	469.0	469	469
439	1																								4	455.0	455	455
440	1																								4	448.0	448	448
441	1																								3	433.0	433	433
442	1																								3	429.0	429	429
443	1																								3	427.0	427	427
444	1																								3	420.0	420	420
445	1																								2	398.0	398	398
446	1																								5	393.0	393	393
447	1																								5	366.0	366	366
448	1																								5	342.0	342	342
449	1																								5	326.0	326	326
450	1																								6	317.0	317	317

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症 例 数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤 数	平均 日数	最小 日数	最大 日数			
		レトロビル	ウアイ テックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビ ル	ザイ ジェン	ピリアード	エプジコ ム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミュー ン	ストックリン	レスクリフ ター	クリキシハ ン	インビラ ゼ	ノビア	ビラセプト	プロゼ	フォートヘ イス					カレトラ	レイアタッ ツ	レクシガ ア
451	1																							2	307.0	307	307	
452	1																								3	294.0	294	294
453	1																								4	288.0	288	288
454	1																								5	287.0	287	287
455	1																								3	285.0	285	285
456	1																								4	281.0	281	281
457	1																								4	279.0	279	279
458	1																								3	272.0	272	272
459	1																								3	266.0	266	266
460	1																								3	265.0	265	265
461	1																								4	262.0	262	262
462	1																								5	261.0	261	261
463	1																								5	249.0	249	249
464	1																								4	244.0	244	244
465	1																								3	238.0	238	238
466	1																								1	234.0	234	234
467	1																								3	229.0	229	229
468	1																								4	225.0	225	225
469	1																								4	211.0	211	211
470	1																								4	209.0	209	209
471	1																								3	201.0	201	201
472	1																								3	196.0	196	196
473	1																								3	196.0	196	196
474	1																								4	192.0	192	192
475	1																								5	192.0	192	192
476	1																								4	190.0	190	190
477	1																								5	190.0	190	190
478	1																								6	189.0	189	189
479	1																								5	187.0	187	187
480	1																								3	184.0	184	184
481	1																								3	183.0	183	183
482	1																								3	180.0	180	180
483	1																								6	173.0	173	173
484	1																								3	171.0	171	171
485	1																								4	170.0	170	170
486	1																								4	170.0	170	170
487	1																								3	166.0	166	166
488	1																								3	162.0	162	162
489	1																								4	162.0	162	162
490	1																								2	161.0	161	161
491	1																								2	161.0	161	161
492	1																								2	157.0	157	157
493	1																								4	151.0	151	151
494	1																								3	139.0	139	139
495	1																								4	137.0	137	137
496	1																								3	135.0	135	135
497	1																								3	133.0	133	133
498	1																								4	132.0	132	132
499	1																								3	132.0	132	132
500	1																								4	128.0	128	128

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤数	平均日数	最小日数	最大日数				
		レトロビル	ウアイデックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エブシコム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシハン	インビラセ	ノービア	ビラセプト	プロセ	フォートヘイス					カレトラ	レイアタック	レクシヴァ	
501	1																								3	128.0	128	128	
502	1																									3	126.0	126	126
503	1																									5	126.0	126	126
504	1																									3	125.0	125	125
505	1																									3	124.0	124	124
506	1																									3	124.0	124	124
507	1																									4	123.0	123	123
508	1																									4	121.0	121	121
509	1																									4	117.0	117	117
510	1																									4	116.0	116	116
511	1																									5	114.0	114	114
512	1																									5	112.0	112	112
513	1																									3	111.0	111	111
514	1																									4	111.0	111	111
515	1																									4	110.0	110	110
516	1																									3	107.0	107	107
517	1																									3	103.0	103	103
518	1																									2	97.0	97	97
519	1																									3	96.0	96	96
520	1																									3	95.0	95	95
521	1																									5	92.0	92	92
522	1																									4	91.0	91	91
523	1																									6	91.0	91	91
524	1																									4	91.0	91	91
525	1																									5	90.0	90	90
526	1																									5	89.0	89	89
527	1																									3	85.0	85	85
528	1																									4	84.0	84	84
529	1																									5	83.0	83	83
530	1																									5	81.0	81	81
531	1																									4	81.0	81	81
532	1																									2	77.0	77	77
533	1																									4	77.0	77	77
534	1																									5	76.0	76	76
535	1																									4	76.0	76	76
536	1																									5	75.0	75	75
537	1																									4	74.0	74	74
538	1																									3	73.0	73	73
539	1																									3	72.0	72	72
540	1																									5	72.0	72	72
541	1																									4	71.0	71	71
542	1																									2	71.0	71	71
543	1																									4	71.0	71	71
544	1																									4	71.0	71	71
545	1																									3	70.0	70	70
546	1																									5	70.0	70	70
547	1																									3	68.0	68	68
548	1																									4	68.0	68	68
549	1																									3	66.0	66	66
550	1																									3	66.0	66	66

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤数	平均日数	最小日数	最大日数			
		レトロビル	ウアイテックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エブシコム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシン	インビラゼ	ノービア	ビラセプト	プロゼ	フォートヘイス					カレトラ	レイアタック	レクシヴァ
551	1																							5	65.0	65	65	
552	1																								4	64.0	64	64
553	1																								4	60.0	60	60
554	1																								2	59.0	59	59
555	1																								4	59.0	59	59
556	1																								4	57.0	57	57
557	1																								3	56.0	56	56
558	1																								3	56.0	56	56
559	1																								5	56.0	56	56
560	1																								3	56.0	56	56
561	1																								3	56.0	56	56
562	1																								4	56.0	56	56
563	1																								3	55.0	55	55
564	1																								3	55.0	55	55
565	1																								5	54.0	54	54
566	1																								4	52.0	52	52
567	1																								4	51.0	51	51
568	1																								4	49.0	49	49
569	1																								4	47.0	47	47
570	1																								2	46.0	46	46
571	1																								3	43.0	43	43
572	1																								3	42.0	42	42
573	1																								2	39.0	39	39
574	1																								4	38.0	38	38
575	1																								4	38.0	38	38
576	1																								5	36.0	36	36
577	1																								5	35.0	35	35
578	1																								4	33.0	33	33
579	1																								4	30.0	30	30
580	1																								4	30.0	30	30
581	1																								2	29.0	29	29
582	1																								2	29.0	29	29
583	1																								2	28.0	28	28
584	1																								2	28.0	28	28
585	1																								2	28.0	28	28
586	1																								4	28.0	28	28
587	1																								3	28.0	28	28
588	1																								5	28.0	28	28
589	1																								3	28.0	28	28
590	1																								3	28.0	28	28
591	1																								2	27.0	27	27
592	1																								5	27.0	27	27
593	1																								4	26.0	26	26
594	1																								4	25.0	25	25
595	1																								2	24.0	24	24
596	1																								3	24.0	24	24
597	1																								4	22.0	22	22
598	1																								4	22.0	22	22
599	1																								5	22.0	22	22
600	1																								5	21.0	21	21

表2 - 1 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合	症例数	核酸系逆転写酵素阻害剤								非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤数	平均日数	最小日数	最大日数			
		レトロビル	ウアイデックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイジェン	ピリアード	エブシコム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシハン	インビラセ	ノービア	ビラセプト	プロゼ	フォートヘイス					カレトラ	レイアタック	レクシヴァ
601	1																							3	21.0	21	21	
602	1																								4	20.0	20	20
603	1																								4	20.0	20	20
604	1																								4	19.0	19	19
605	1																								5	19.0	19	19
606	1																								5	19.0	19	19
607	1																								4	18.0	18	18
608	1																								3	16.0	16	16
609	1																								2	15.0	15	15
610	1																								4	15.0	15	15
611	1																								4	15.0	15	15
612	1																								1	14.0	14	14
613	1																								3	14.0	14	14
614	1																								3	14.0	14	14
615	1																								3	14.0	14	14
616	1																								3	13.0	13	13
617	1																								2	13.0	13	13
618	1																								5	13.0	13	13
619	1																								3	13.0	13	13
620	1																								3	12.0	12	12
621	1																								2	12.0	12	12
622	1																								3	12.0	12	12
623	1																								4	12.0	12	12
624	1																								3	11.0	11	11
625	1																								6	11.0	11	11
626	1																								4	10.0	10	10
627	1																								4	10.0	10	10
628	1																								6	10.0	10	10
629	1																								3	10.0	10	10
630	1																								5	10.0	10	10
631	1																								4	10.0	10	10
632	1																								4	10.0	10	10
633	1																								4	9.0	9	9
634	1																								5	9.0	9	9
635	1																								4	9.0	9	9
636	1																								3	8.0	8	8
637	1																								5	8.0	8	8
638	1																								5	8.0	8	8
639	1																								4	8.0	8	8
640	1																								2	7.0	7	7
641	1																								3	7.0	7	7
642	1																								4	7.0	7	7
643	1																								3	7.0	7	7
644	1																								4	7.0	7	7
645	1																								4	6.0	6	6
646	1																								4	6.0	6	6
647	1																								4	6.0	6	6
648	1																								4	6.0	6	6
649	1																								2	5.0	5	5
650	1																								4	5.0	5	5



表2-1-1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間：調査開始～2008年3月31日

組合 症 例 数	核酸系逆転写酵素阻害剤									非核酸系逆転写酵素阻害剤					プロテアーゼ阻害剤							剤 数	平均 日数	最小 日数	最大 日数			
	レトロビル	ウアイ テックス	ハイビッド	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイ ジエン	ビリアード	エブシコ ム	エムトラバ	ツルバダ	ビラミュー ン	ストックリン	レスクリフ ター	クリキシハ ン	インビラー ゼ	ノービア	ビラセプト	プローゼ	フォートヘ イス	カレトラ					レイアタッ ツ	レクシヴァ	
651	1																							5	5.0	5	5	
652	1																							4	5.0	5	5	
653	1																							3	4.0	4	4	
654	1																							5	4.0	4	4	
655	1																							4	4.0	4	4	
656	1																							3	3.0	3	3	
657	1																							3	2.0	2	2	
658	1																							3	2.0	2	2	
659	1																							5	2.0	2	2	
660	1																							3	2.0	2	2	
計		2412496	824100	192656	4074489	2018552	592038	466656	658973	199757	5671	303624	184857	1843477	51	635537	198261	836129	1406586	27549	37248	886962	564835	70253				

計の日数は患者全体の投与日数を示した。

注1：調査票に上記薬剤の治験中(承認前)の情報が記載されていた場合、その情報を含め集計した。

注2：1日併用に関しては除外した。

表2 - 1 - 2 . HIV関連疾患治療薬 使用実態表

投与期間:調査開始～2008年3月31日

組合	症 例 数	抗CMV		抗MAC		カボジ肉腫	剤 数	平均 日数	最小 日数	最大 日数
		デノシンcap	ハリキサ	クラリスロマイシン	ジスロマック	ドキシル				
1	311						1	310.3	3	2635
2	308						1	424.8	2	3288
3	86						1	188.1	2	1100
4	65						1	143.9	3	580
5	42						2	157.2	2	711
6	22						2	214.9	7	1026
7	21						2	125.7	2	500
8	12						2	102.3	13	298
9	1						2	329.0	329	329
計		23546	17185	137108	106073	0				

:計の日数は患者全体の投与日数を示した。

注1:調査票に上記薬剤の治験中(承認前)の情報が記載されていた場合、その情報を含め集計した。

注2:1日併用に関しては除外した。







表2 - 2 - 1. 抗HIV薬 使用実態表

投与期間:2007年4月1日 ~ 2008年3月31日

組合	症 例 数	核酸系逆転写酵素阻害剤											非核酸系逆転写酵素阻害剤			プロテアーゼ阻害剤							劑 数				
		レトロビル	ザイテックス	ハイビット	エビビル	ゼリット	コンビビル	ザイアシエン	ビリアード	エプジコム	エムトリバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシラン	インビラゼ	ノービア	ビラセプト	プローゼ	フォートハイズ	カレトラ		レイアタツ	レクシガア		
151	1																									1	
152	1																										5
153	1																										3
154	1																										3
155	1																										2
156	1																										3
157	1																										4
158	1																										3
159	1																										2
160	1																										2
161	1																										5
162	1																										5
163	1																										4
164	1																										3
165	1																										4
166	1																										2
167	1																										2
168	1																										4
169	1																										4
170	1																										1
171	1																										2
172	1																										2
173	1																										4
174	1																										2
175	1																										3
計		65233	16083	0	194012	25813	48747	47363	111055	82879	2816	142790	9704	199497	0	38	1027	147935	5577	0	0	128279	141681	26338			

:計の日数は患者全体の投与日数を示した。

注1:調査票に上記薬剤の治験中(承認前)の情報が記載されていた場合、その情報を含め集計した。

注2:1日併用に関しては除外した。

表2 - 2 - 2 . HIV関連疾患治療薬 使用実態表

投与期間:2007年4月1日～2008年3月31日

組合	症例数	抗CMV		抗MAC		カポジ肉腫	剤数
		テノシンcap	ハリキサ	クラリスロマイシン	ジスロマック	ドキシル	
1	49						1
2	18						1
3	12						2
4	7						1
5	2						2
計		0	4910	1893	11557	0	

.計の日数は患者全体の投与日数を示した。

注1:調査票に上記薬剤の治験中(承認前)の情報が記載されていた場合、その情報を含め集計した。  
 注2:1日併用に関しては除外した。

表3. 組合 1 ツルバダ + ストックリン併用例の患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		224	49	73	21.88%	
性別	男	208	45	67	21.63%	P=0.756
	女	16	4	6	25.00%	
年齢	14歳	0			-	P=0.688
	15歳 - 64歳	215	48	70	22.33%	
	65歳	9	1	3	11.11%	
人種	日本人	203	44	67	21.67%	P=0.786
	その他	21	5	6	23.81%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	97	10	16	10.31%	P=0.000 **
	有	127	39	57	30.71%	
併用療法有無	無	215	45	64	20.93%	P=0.108
	有	9	4	9	44.44%	
合併症有無	無	68	10	16	14.71%	P=0.113
	有	156	39	57	25.00%	
合併症肝障害	無	167	34	52	20.36%	P=0.358
	有	57	15	21	26.32%	
	肝炎	38	10	14	26.32%	
血友病	無	212	45	67	21.23%	P=0.301
	有	12	4	6	33.33%	
	A	9	3	5	33.33%	P=1.000
	B	3	1	1	33.33%	
既往歴有無	無	100	20	28	20.00%	P=0.620
	有	113	26	42	23.01%	
	不明・未記載	11	3	3	27.27%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	141	30	47	21.28%	P=0.846
	有	53	12	18	22.64%	
	不明・未記載	30	7	8	23.33%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用はありません。

器官分類別では、10%以上の頻度で副作用が発現していません。

詳細は次表を参照。



表4. 組合 1

## ツルバダ + ストックリン併用例の副作用発現状況

調査施設数	36
調査症例数	224
副作用等の発現症例数	49 (21.88%)
副作用等の発現件数	73
副作用等の種類	例数(%)
感染症および寄生虫症	1例 (0.45)
足部白癬	1 (0.45)
良性、悪性および詳細不明の新生物(嚢胞およびホリーフを含む)	1例 (0.45)
カボシ肉腫	1 (0.45)
代謝および栄養障害	10例 (4.46)
糖尿病	1 (0.45)
高コレステロール血症	2 (0.89)
高トリグリセリド血症	2 (0.89)
高アルカリホスファターゼ血症	5 (2.23)
高脂血症	1 (0.45)
精神障害	6例 (2.68)
うつ病	3 (1.34)
不眠症	3 (1.34)
神経症	1 (0.45)
神経系障害	7例 (3.13)
浮動性めまい	4 (1.79)
味覚異常	2 (0.89)
頭痛	1 (0.45)
神経系障害	1 (0.45)
耳および迷路障害	1例 (0.45)
乗物酔い	1 (0.45)
胃腸障害	5例 (2.23)
腹部膨満	1 (0.45)
口内乾燥	1 (0.45)
胃炎	1 (0.45)
胃食道逆流性疾患	1 (0.45)
食道静脈瘤出血	1 (0.45)
肝胆道系障害	8例 (3.57)
肝機能異常	3 (1.34)
脂肪肝	2 (0.89)
肝障害	4 (1.79)
皮膚および皮下組織障害	11例 (4.91)
アレルギー性皮膚炎	1 (0.45)
薬疹	1 (0.45)
紅斑	1 (0.45)
そう痒症	2 (0.89)
発疹	3 (1.34)
全身性皮疹	1 (0.45)
蕁麻疹	2 (0.89)
色素沈着障害	1 (0.45)
腎および尿路障害	3例 (1.34)
腎結石症	1 (0.45)
蛋白尿	1 (0.45)
腎障害	1 (0.45)
全身障害および投与局所様態	2例 (0.89)
倦怠感	1 (0.45)
発熱	1 (0.45)
臨床検査	11例 (4.91)
尿中 2ミクログロブリン増加	2 (0.89)
血中クレアチンホスホキナーゼ増加	1 (0.45)
血中クレアチニン増加	1 (0.45)
γ-グルタミルトランスフェラーゼ増加	5 (2.23)
白血球数減少	2 (0.89)
血中アルカリホスファターゼ増加	1 (0.45)
尿沈渣異常	1 (0.45)

表5. 組合 2

ツルバダ + ノーピア + レイアタツ併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		228	78	115	34.21%	
性別	男	209	71	106	33.97%	P=0.804
	女	19	7	9	36.84%	
年齢	14歳	0			-	P=1.000
	15歳 - 64歳	223	76	113	34.08%	
	65歳	5	2	2	40.00%	
人種	日本人	216	74	108	34.26%	P=1.000
	その他	12	4	7	33.33%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	94	25	32	26.60%	P=0.048 *
	有	134	53	83	39.55%	
併用療法有無	無	219	73	107	33.33%	P=0.280
	有	9	5	8	55.56%	
合併症有無	無	78	25	30	32.05%	P=0.661
	有	150	53	85	35.33%	
合併症肝障害	無	167	50	71	29.94%	P=0.028 *
	有	61	28	44	45.90%	
	肝炎	51	21	35	41.18%	
血友病	無	206	70	96	33.98%	P=0.817
	有	22	8	19	36.36%	
	A	15	5	9	33.33%	P=1.000
	B	7	3	10	42.86%	
既往歴有無	無	102	35	46	34.31%	P=0.667
	有	119	37	60	31.09%	
	不明・未記載	7	6	9	85.71%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	139	40	56	28.78%	P=0.405
	有	60	21	31	35.00%	
	不明・未記載	29	17	28	58.62%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には高ビリルビン血症(15.8%)、血中ビリルビン増加(7.0%)があり、器官分類別では、肝胆道系障害(17.1%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。詳細は次表を参照。

表6. 組合 2

## ツルバダ + ノーピア + レイタツ併用例の副作用発現状況

調査施設数	40
調査症例数	228
副作用等の発現症例数	78 (34.21%)
副作用等の発現件数	115
副作用等の種類	例数(%)
血液およびリハ系障害	1例 (0.44)
貧血	1 (0.44)
内分泌障害	1例 (0.44)
甲状腺機能低下症	1 (0.44)
代謝および栄養障害	10例 (4.39)
糖尿病	1 (0.44)
高コレステロール血症	1 (0.44)
高トリグリセリド血症	4 (1.75)
高尿酸血症	1 (0.44)
多飲症	1 (0.44)
高アルカホスファターゼ血症	2 (0.88)
高脂血症	1 (0.44)
精神障害	1例 (0.44)
うつ病	1 (0.44)
耳および迷路障害	1例 (0.44)
回転性めまい	1 (0.44)
血管障害	2例 (0.88)
高血圧	2 (0.88)
胃腸障害	10例 (4.39)
腹部膨満	1 (0.44)
腹痛	1 (0.44)
下痢	3 (1.32)
腸炎	1 (0.44)
胃潰瘍	1 (0.44)
悪心	2 (0.88)
急性膵炎	1 (0.44)
嘔吐	1 (0.44)
肝胆道系障害	39例 (17.11)
肝機能異常	1 (0.44)
高ビリルビン血症	36 (15.79)
黄疸	2 (0.88)
肝障害	3 (1.32)
皮膚および皮下組織障害	9例 (3.95)
脱毛症	1 (0.44)
薬疹	3 (1.32)
発疹	3 (1.32)
蕁麻疹	1 (0.44)
脂肪肥大症	1 (0.44)
筋骨格系および結合組織障害	1例 (0.44)
関節痛	1 (0.44)
腎および尿路障害	5例 (2.19)
排尿困難	1 (0.44)
頻尿	1 (0.44)
多尿	1 (0.44)
蛋白尿	1 (0.44)
腎障害	2 (0.88)
腎機能障害	1 (0.44)
全身障害および投与局所様態	1例 (0.44)
倦怠感	1 (0.44)
臨床検査	21例 (9.21)
アミン・アミノトランスフェラーゼ増加	1 (0.44)
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加	1 (0.44)
尿中 2マイクログロブリン増加	1 (0.44)
血中ビリルビン増加	16 (7.02)
血中クレアチンホスホキナーゼ増加	1 (0.44)
血中トリグリセリド増加	2 (0.88)
血中尿酸増加	1 (0.44)
肝機能検査異常	2 (0.88)
尿蛋白	1 (0.44)
血中リン減少	1 (0.44)

表7. 組合 3

エピビル+ピリアード+ストックリン併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		416	112	160	26.92%	
性別	男	382	105	152	27.49%	P=0.545
	女	34	7	8	20.59%	
年齢	14歳	1			0.00%	P=0.691
	15歳 64歳	398	109	154	27.39%	
	65歳	17	3	6	17.65%	
人種	日本人	393	107	155	27.23%	P=0.809
	その他	23	5	5	21.74%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	155	24	32	15.48%	P=0.000 **
	有	261	88	128	33.72%	
併用療法有無	無	395	103	144	26.08%	P=0.126
	有	21	9	16	42.86%	
合併症有無	無	120	28	35	23.33%	P=0.330
	有	296	84	125	28.38%	
合併症肝障害	無	318	75	101	23.58%	P=0.009 **
	有	98	37	59	37.76%	
	肝炎	76	29	45	38.16%	
血友病	無	385	97	132	25.19%	P=0.010 *
	有	31	15	28	48.39%	
	A	28	14	27	50.00%	P=1.000
	B	3	1	1	33.33%	
既往歴有無	無	141	39	64	27.66%	P=0.907
	有	266	71	94	26.69%	
	不明・未記載	9	2	2	22.22%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	264	55	81	20.83%	P=0.002 **
	有	107	39	49	36.45%	
	不明・未記載	45	18	30	40.00%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用はありません。  
器官分類別では、10%以上の頻度で副作用が発現していません。  
詳細は次表を参照。

表8. 組合 3

## エピビル+ピリアード+ストックリン併用例の副作用発現状況

調査施設数	50
調査症例数	416
副作用等の発現症例数	112 (26.92%)
副作用等の発現件数	160
副作用等の種類	例数(%)
感染症および寄生虫症	4例 (0.96)
帯状疱疹	1 (0.24)
マイコプラズマ・アピウムコンプレックス感染	1 (0.24)
サイトメガロウイルス血症	1 (0.24)
口腔ヘルペス	1 (0.24)
血液およびリンパ系障害	1例 (0.24)
鉄欠乏性貧血	1 (0.24)
代謝および栄養障害	21例 (5.05)
糖尿病	2 (0.48)
高トリグリセリド血症	5 (1.20)
高尿酸血症	2 (0.48)
高アルカリホスファターゼ血症	2 (0.48)
高脂血症	10 (2.40)
高アマラーゼ血症	2 (0.48)
精神障害	21例 (5.05)
異常な夢	2 (0.48)
うつ病	7 (1.68)
不快気分	1 (0.24)
不眠症	10 (2.40)
神経症	1 (0.24)
悪夢	2 (0.48)
自殺企図	1 (0.24)
抑うつ症状	1 (0.24)
精神症状	1 (0.24)
神経系障害	18例 (4.33)
小脳出血	1 (0.24)
浮動性めまい	11 (2.64)
頭部不快感	1 (0.24)
神経系障害	1 (0.24)
末梢性ニューロパチー	1 (0.24)
感覚障害	1 (0.24)
傾眠	2 (0.48)
頸動脈疾患	1 (0.24)
心臓障害	1例 (0.24)
僧帽弁疾患	1 (0.24)
血管障害	3例 (0.72)
高血圧	3 (0.72)
胃腸障害	10例 (2.40)
腹部膨満	3 (0.72)
下痢	1 (0.24)
鼓腸	1 (0.24)
胃炎	1 (0.24)
悪心	3 (0.72)
胃不快感	1 (0.24)
腹部症状	1 (0.24)
肝胆道系障害	20例 (4.81)
肝硬変	1 (0.24)
肝機能異常	12 (2.88)
劇症肝炎	1 (0.24)
肝障害	7 (1.68)
皮膚および皮下組織障害	19例 (4.57)
さ瘡	1 (0.24)
脱毛症	1 (0.24)
薬疹	7 (1.68)
そう痒症	1 (0.24)
発疹	7 (1.68)
全身性皮疹	1 (0.24)
慢性尋麻疹	2 (0.48)
腎および尿路障害	7例 (1.68)
尿路結石	1 (0.24)
蛋白尿	1 (0.24)
腎障害	2 (0.48)
急性腎不全	1 (0.24)
腎尿管障害	3 (0.72)
生殖系および乳房障害	1例 (0.24)
女性化乳房	1 (0.24)
全身障害および投与局所様態	3例 (0.72)
倦怠感	2 (0.48)
発熱	1 (0.24)

臨床検査	15例 (3.61)
アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加	1 (0.24)
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加	1 (0.24)
血中クレアチンホスホキナーゼ増加	1 (0.24)
血中クレアチニン増加	1 (0.24)
血中トリグリセリド増加	1 (0.24)
-グルタミルトランスフェラーゼ増加	5 (1.20)
トランスアミナーゼ上昇	1 (0.24)
血中アルカリホスファターゼ増加	6 (1.44)
肝酵素上昇	1 (0.24)
傷害、中毒および処置合併症	1例 (0.24)
圧迫骨折	1 (0.24)

エブリコム+ノーピア+レイアタツ併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		154	76	108	49.35%	
性別	男	142	70	102	49.30%	P=1.000
	女	12	6	6	50.00%	
年齢	14歳	0			-	P=0.059
	15歳 64歳	149	76	108	51.01%	
	65歳	5			0.00%	
人種	日本人	148	73	105	49.32%	P=1.000
	その他	6	3	3	50.00%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	61	24	32	39.34%	P=0.050 *
	有	93	52	76	55.91%	
併用療法有無	無	151	74	102	49.01%	P=0.618
	有	3	2	6	66.67%	
合併症有無	無	53	28	39	52.83%	P=0.612
	有	101	48	69	47.52%	
合併症肝障害	無	122	61	88	50.00%	P=0.843
	有	32	15	20	46.88%	
	肝炎	23	11	15	47.83%	
血友病	無	145	71	99	48.97%	P=0.744
	有	9	5	9	55.56%	
	A	8	4	8	50.00%	P=1.000
	B	1	1	1	100.00%	
既往歴有無	無	40	17	19	42.50%	P=0.357
	有	112	59	89	52.68%	
	不明・未記載	2			0.00%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	60	23	33	38.33%	P=0.159
	有	70	36	54	51.43%	
	不明・未記載	24	17	21	70.83%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には血中ビリルビン増加(29.9%)、高脂血症(7.1%)、高ビリルビン血症(5.8%)があり、器官分類別では、臨床検査(35.7%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。詳細は次表を参照。

表10. 組合 4

## エブリコム + ノーピア + レイアタツ併用例の副作用発現状況

調査施設数	29
調査症例数	154
副作用等の発現症例数	76 (49.35%)
副作用等の発現件数	108
副作用等の種類	例数(%)
代謝および栄養障害	14例 (9.09)
糖尿病	1 (0.65)
耐糖能障害	1 (0.65)
高トリグリセリド血症	2 (1.30)
高脂血症	11 (7.14)
精神障害	2例 (1.30)
うつ病	1 (0.65)
不眠症	2 (1.30)
神経系障害	2例 (1.30)
脳梗塞	1 (0.65)
頭痛	1 (0.65)
心臓障害	1例 (0.65)
第一度房室ブロック	1 (0.65)
胃腸障害	8例 (5.19)
下痢	2 (1.30)
胃炎	1 (0.65)
悪心	3 (1.95)
逆流性食道炎	1 (0.65)
胃不快感	1 (0.65)
肝胆道系障害	11例 (7.14)
肝機能異常	2 (1.30)
高ビリルビン血症	9 (5.84)
皮膚および皮下組織障害	4例 (2.60)
発疹	4 (2.60)
腎および尿路障害	1例 (0.65)
腎機能障害	1 (0.65)
全身障害および投与局所様態	1例 (0.65)
倦怠感	1 (0.65)
臨床検査	55例 (35.71)
アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加	2 (1.30)
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加	2 (1.30)
血中ビリルビン増加	46 (29.87)
血中トリグリセリド増加	5 (3.25)
血中尿酸増加	4 (2.60)
γ-グルタミルトランスフェラーゼ増加	2 (1.30)
血小板数減少	1 (0.65)

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		68	20	28	29.41%	
性別	男	66	20	28	30.30%	P=1.000
	女	2			0.00%	
年齢	14歳	0			-	P=1.000
	15歳 - 64歳	66	20	28	30.30%	
	65歳	2			0.00%	
人種	日本人	66	19	24	28.79%	P=0.505
	その他	2	1	4	50.00%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	20	4	8	20.00%	P=0.384
	有	48	16	20	33.33%	
併用療法有無	無	66	20	28	30.30%	P=1.000
	有	2			0.00%	
合併症有無	無	17	4	7	23.53%	P=0.760
	有	51	16	21	31.37%	
合併症肝障害	無	45	13	19	28.89%	P=1.000
	有	23	7	9	30.43%	
	肝炎	23	7	9	30.43%	
血友病	無	60	19	27	31.67%	P=0.421
	有	8	1	1	12.50%	
	A	6	1	1	16.67%	P=1.000
	B	2			0.00%	
既往歴有無	無	26	4	5	15.38%	P=0.055
	有	41	16	23	39.02%	
	不明・未記載	1			0.00%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	41	11	18	26.83%	P=0.380
	有	20	8	9	40.00%	
	不明・未記載	7	1	1	14.29%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には高脂血症(7.4%)があり、  
器官分類別では、代謝および栄養障害(13.2%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。  
詳細は次表を参照。



## ツルバダ + カレトラ併用例の副作用発現状況

調査施設数	29
調査症例数	68
副作用等の発現症例数	20 (29.41%)
副作用等の発現件数	28
副作用等の種類	例数(%)
代謝および栄養障害	9例 (13.24)
高コレステロール血症	1 (1.47)
高トリグリセリド血症	3 (4.41)
高アルカリホスファターゼ血症	1 (1.47)
高脂血症	5 (7.35)
心臓障害	2例 (2.94)
第二度房室ブロック	1 (1.47)
心拡大	1 (1.47)
血管障害	1例 (1.47)
高血圧	1 (1.47)
胃腸障害	5例 (7.35)
下痢	3 (4.41)
悪心	3 (4.41)
嘔吐	1 (1.47)
肝胆道系障害	2例 (2.94)
肝機能異常	1 (1.47)
肝障害	1 (1.47)
皮膚および皮下組織障害	1例 (1.47)
蕁麻疹	1 (1.47)
臨床検査	5例 (7.35)
尿中 2マイクロロアリン増加	1 (1.47)
血中クレアチニン増加	1 (1.47)
血中トリグリセリド増加	1 (1.47)
トランスアミナーゼ上昇	1 (1.47)
肝酵素上昇	1 (1.47)

表13. 組合 6

エピビル+ピリアード+ノーピア+レイアタツ併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		285	106	146	37.19%	
性別	男	256	99	139	38.67%	P=0.157
	女	29	7	7	24.14%	
年齢	14歳	0			-	P=0.714
	15歳 64歳	277	104	144	37.55%	
	65歳	8	2	2	25.00%	
人種	日本人	267	101	141	37.83%	P=0.459
	その他	18	5	5	27.78%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	102	33	41	32.35%	P=0.250
有	183	73	105	39.89%		
併用療法有無	無	273	101	139	37.00%	P=0.766
	有	12	5	7	41.67%	
合併症有無	無	93	36	55	38.71%	P=0.794
	有	192	70	91	36.46%	
合併症肝障害	無	221	79	107	35.75%	P=0.380
	有	64	27	39	42.19%	
	肝炎	56	24	36	42.86%	
血友病	無	258	95	131	36.82%	P=0.681
	有	27	11	15	40.74%	
	A	23	11	15	47.83%	P=0.123
	B	4			0.00%	
既往歴有無	無	98	37	44	37.76%	P=0.896
	有	179	65	97	36.31%	
	不明・未記載	8	4	5	50.00%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	179	53	66	29.61%	P=0.001 **
	有	77	40	57	51.95%	
	不明・未記載	29	13	23	44.83%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には高ビリルビン血症(18.2%)、血中ビリルビン増加(7.0%)があり、器官分類別では、肝胆道系障害(19.3%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。詳細は次表を参照。

表14. 組合 6 エピビル+ピリアード+ノービア+レイアタツ併用例の副作用発現状況

調査施設数	32
調査症例数	285
副作用等の発現症例数	106 (37.19%)
副作用等の発現件数	146
副作用等の種類	例数(%)
感染症および寄生虫症	4例 (1.40)
帯状疱疹	3 (1.05)
爪真菌症	1 (0.35)
良性、悪性および詳細不明の新生物(嚢胞およびホリーフを含む)	1例 (0.35)
リンパ腫	1 (0.35)
血液およびリンパ系障害	1例 (0.35)
リンパ節症	1 (0.35)
免疫系障害	1例 (0.35)
薬物過敏症	1 (0.35)
代謝および栄養障害	16例 (5.61)
耐糖能障害	1 (0.35)
高コレステロール血症	1 (0.35)
高血糖	1 (0.35)
高乳酸血症	1 (0.35)
高トリグリセリド血症	7 (2.46)
高尿酸血症	1 (0.35)
食欲減退	1 (0.35)
高脂血症	3 (1.05)
精神障害	4例 (1.40)
抑うつ気分	1 (0.35)
不眠症	1 (0.35)
悪夢	1 (0.35)
不安障害	1 (0.35)
神経系障害	3例 (1.05)
感覚鈍麻	1 (0.35)
傾眠	2 (0.70)
胃腸障害	11例 (3.86)
腹部不快感	1 (0.35)
腹部膨満	2 (0.70)
下痢	3 (1.05)
鼓腸	1 (0.35)
ムネ	1 (0.35)
悪心	4 (1.40)
食道静脈瘤	1 (0.35)
腹部症状	1 (0.35)
肝胆道系障害	55例 (19.30)
肝機能異常	3 (1.05)
高ビリルビン血症	52 (18.25)
肝障害	2 (0.70)
皮膚および皮下組織障害	8例 (2.81)
ざ瘡	1 (0.35)
薬疹	2 (0.70)
湿疹	1 (0.35)
脂肪組織萎縮症	1 (0.35)
発疹	3 (1.05)
筋骨格系および結合組織障害	1例 (0.35)
筋肉内出血	1 (0.35)
腎および尿路障害	3例 (1.05)
腎障害	1 (0.35)
腎尿細管障害	1 (0.35)
腎機能障害	1 (0.35)
全身障害および投与局所様態	3例 (1.05)
胸痛	1 (0.35)
倦怠感	2 (0.70)
臨床検査	27例 (9.47)
尿中2-マイクログロブリン増加	3 (1.05)
血中ビリルビン増加	20 (7.02)
血中クレアチニン増加	1 (0.35)
血中ブドウ糖増加	1 (0.35)
血中トリグリセリド増加	1 (0.35)
血中尿酸増加	1 (0.35)
肝機能検査異常	1 (0.35)
腎機能検査異常	1 (0.35)
尿沈渣異常	1 (0.35)

表15. 組合 7 エブジコム + ストックリン併用例の患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		97	38	65	39.18%	
性別	男	87	34	60	39.08%	P=1.000
	女	10	4	5	40.00%	
年齢	14歳	0			-	P=0.643
	15歳 - 64歳	93	36	63	38.71%	
	65歳	4	2	2	50.00%	
人種	日本人	92	35	60	38.04%	P=0.377
	その他	5	3	5	60.00%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	36	14	26	38.89%	P=1.000
有	61	24	39	39.34%		
併用療法有無	無	95	38	65	40.00%	P=0.518
	有	2			0.00%	
合併症有無	無	28	10	20	35.71%	P=0.819
	有	69	28	45	40.58%	
合併症肝障害	無	73	29	52	39.73%	P=1.000
	有	24	9	13	37.50%	
	肝炎	18	7	9	38.89%	-
血友病	無	88	37	64	42.05%	P=0.085
	有	9	1	1	11.11%	
	A	7	1	1	14.29%	P=1.000
	B	2			0.00%	
既往歴有無	無	41	12	17	29.27%	P=0.097
	有	56	26	48	46.43%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	45	12	15	26.67%	P=0.022 *
	有	36	19	35	52.78%	
	不明・未記載	16	7	15	43.75%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には発疹(7.2%)、高脂血症(6.2%)、血中トリグリセリド増加(6.2%)、  
 -ゲルタミルトランスフェラーゼ増加(6.2%)、浮動性めまい(5.2%)があり、  
 器官分類別では、臨床検査(14.4%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。  
 詳細は次表を参照。

表16. 組合 7

## エブジコム + ストックリン併用例の副作用発現状況

調査施設数	25
調査症例数	97
副作用等の発現症例数	38 (39.18%)
副作用等の発現件数	65
副作用等の種類	例数(%)
代謝および栄養障害	6例 (6.19)
高脂血症	6 (6.19)
精神障害	9例 (9.28)
抑うつ気分	1 (1.03)
うつ病	3 (3.09)
全般性不安障害	1 (1.03)
初期不眠症	1 (1.03)
不眠症	3 (3.09)
異常行動	1 (1.03)
神経系障害	8例 (8.25)
注意力障害	1 (1.03)
浮動性めまい	5 (5.15)
感覚鈍麻	1 (1.03)
意識消失	1 (1.03)
記憶障害	1 (1.03)
心臓障害	1例 (1.03)
心不全	1 (1.03)
呼吸器、胸郭および縦隔障害	1例 (1.03)
呼吸困難	1 (1.03)
胃腸障害	3例 (3.09)
急性膵炎	1 (1.03)
胃不快感	1 (1.03)
嘔吐	1 (1.03)
肝胆道系障害	2例 (2.06)
肝障害	2 (2.06)
皮膚および皮下組織障害	7例 (7.22)
発疹	7 (7.22)
腎および尿路障害	1例 (1.03)
腎結石症	1 (1.03)
全身障害および投与局所様態	3例 (3.09)
無力症	1 (1.03)
倦怠感	1 (1.03)
発熱	1 (1.03)
臨床検査	14例 (14.43)
血中ビリルビン増加	1 (1.03)
血中コレステロール増加	2 (2.06)
血中クレアチン増加	1 (1.03)
血中乳酸脱水素酵素増加	1 (1.03)
血中トリグリセリド増加	6 (6.19)
血中尿酸増加	2 (2.06)
-グルタミルトランスフェラーゼ増加	6 (6.19)
低比重リボ蛋白増加	1 (1.03)
白血球数減少	1 (1.03)
血中アルカリホスファターゼ増加	1 (1.03)

表17. 組合 8

レトロビル+エピビル+ストックリン併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果
計		330	124	230	37.58%	(Fisher)
性別	男	292	111	206	38.01%	P=0.724
	女	38	13	24	34.21%	
年齢	14歳	0			-	P=1.000
	15歳 64歳	320	120	223	37.50%	
	65歳	10	4	7	40.00%	
人種	日本人	311	117	217	37.62%	P=1.000
	その他	19	7	13	36.84%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	89	28	47	31.46%	P=0.200
有	241	96	183	39.83%		
併用療法有無	無	315	119	217	37.78%	P=0.793
	有	15	5	13	33.33%	
合併症有無	無	113	37	60	32.74%	P=0.231
	有	217	87	170	40.09%	
合併症肝障害	無	256	92	161	35.94%	P=0.277
	有	74	32	69	43.24%	
	肝炎	57	25	59	43.86%	
血友病	無	302	111	193	36.75%	P=0.316
	有	28	13	37	46.43%	
	A	23	9	26	39.13%	P=0.153
	B	5	4	11	80.00%	
既往歴有無	無	137	50	100	36.50%	P=0.907
	有	184	69	121	37.50%	
	不明・未記載	9	5	9	55.56%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	234	78	143	33.33%	P=0.071
	有	73	33	64	45.21%	
	不明・未記載	23	13	23	56.52%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には貧血(6.7%)があり、  
器官分類別では、臨床検査(10.6%)、皮膚および皮下組織障害(10.0%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。  
詳細は次表を参照。

表18. 組合 8

## レトロビル+エピビル+ストックリン併用例の副作用発現状況

調査施設数	48
調査症例数	330
副作用等の発現症例数	124 (37.58%)
副作用等の発現件数	230
副作用等の種類	例数(%)
感染症および寄生虫症	2例 (0.61)
C型肝炎	1 (0.30)
帯状疱疹	1 (0.30)
血液およびリンパ系障害	29例 (8.79)
貧血	22 (6.67)
大球性貧血	1 (0.30)
赤血球減少症	1 (0.30)
顆粒球減少症	1 (0.30)
白血球減少症	2 (0.61)
好中球減少症	2 (0.61)
出血性素因	1 (0.30)
骨髓機能不全	1 (0.30)
内分泌障害	2例 (0.61)
ハセト病	1 (0.30)
甲状腺炎	1 (0.30)
代謝および栄養障害	21例 (6.36)
糖尿病	1 (0.30)
高コレステロール血症	2 (0.61)
高トリグリセリド血症	2 (0.61)
高尿酸血症	2 (0.61)
体脂肪異常	1 (0.30)
高脂血症	16 (4.85)
精神障害	22例 (6.67)
異常な夢	2 (0.61)
妄想	1 (0.30)
抑うつ気分	1 (0.30)
うつ病	1 (0.30)
幻聴	1 (0.30)
不眠症	8 (2.42)
気分変化	1 (0.30)
悪夢	8 (2.42)
統合失調症	1 (0.30)
不安障害	1 (0.30)
神経系障害	18例 (5.45)
脳梗塞	1 (0.30)
浮動性めまい	15 (4.55)
味覚異常	1 (0.30)
頭痛	2 (0.61)
感覚鈍麻	1 (0.30)
傾眠	3 (0.91)
耳および迷路障害	1例 (0.30)
回転性めまい	1 (0.30)
血管障害	2例 (0.61)
高血圧	1 (0.30)
四肢静脈血栓症	1 (0.30)
呼吸器、胸郭および縦隔障害	2例 (0.61)
喘息	1 (0.30)
肺塞栓症	1 (0.30)
胃腸障害	10例 (3.03)
下痢	1 (0.30)
胃炎	3 (0.91)
胃腸障害	1 (0.30)
悪心	5 (1.52)
胃不快感	1 (0.30)
口内炎	1 (0.30)
心窩部不快感	1 (0.30)
肝胆道系障害	16例 (4.85)
肝機能異常	8 (2.42)
肝障害	8 (2.42)
皮膚および皮下組織障害	33例 (10.00)
脱毛症	1 (0.30)
薬疹	10 (3.03)
湿疹	1 (0.30)
そう痒症	1 (0.30)
発疹	15 (4.55)
全身性皮疹	1 (0.30)
蕁麻疹	2 (0.61)
後天性ポツポツ病	1 (0.30)
中毒性皮疹	1 (0.30)
筋骨格系および結合組織障害	2例 (0.61)
関節炎	1 (0.30)
横紋筋融解	1 (0.30)

腎および尿路障害	1例 (0.30)
腎機能障害	1 (0.30)
全身障害および投与局所様態	8例 (2.42)
無力症	1 (0.30)
胸部不快感	2 (0.61)
異常感	1 (0.30)
易刺激性	1 (0.30)
多臓器不全	1 (0.30)
末梢性浮腫	1 (0.30)
発熱	2 (0.61)
臨床検査	35例 (10.61)
アミン・アミトランスフェラーゼ増加	1 (0.30)
血中コレステロール増加	5 (1.52)
血中クレアチンホスホキナーゼ増加	1 (0.30)
血中乳酸脱水素酵素増加	1 (0.30)
血中乳酸増加	1 (0.30)
血中トリグリセリド増加	10 (3.03)
血中尿酸増加	2 (0.61)
-グルタミルトランスフェラーゼ増加	11 (3.33)
ヘモグロビン減少	2 (0.61)
血小板数減少	1 (0.30)
白血球数減少	7 (2.12)
血中アルカリホスファターゼ増加	1 (0.30)
傷害、中毒および処置合併症	1例 (0.30)
腰椎骨折	1 (0.30)

表19. 組合 9 コンビビル+ストックリン併用例の患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		286	131	232	45.80%	
性別	男	271	126	223	46.49%	P=0.427
	女	15	5	9	33.33%	
年齢	14歳	0			-	P=0.209
	15歳 64歳	284	129	229	45.42%	
	65歳	2	2	3	100.00%	
人種	日本人	260	122	219	46.92%	P=0.303
	その他	26	9	13	34.62%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	106	38	56	35.85%	P=0.010 *
有	180	93	176	51.67%		
併用療法有無	無	272	125	220	45.96%	P=1.000
有	14	6	12	42.86%		
合併症有無	無	127	57	90	44.88%	P=0.812
有	159	74	142	46.54%		
合併症肝障害	無	235	105	176	44.68%	P=0.441
	有	51	26	56	50.98%	
	肝炎	36	15	23	41.67%	
血友病	無	280	129	226	46.07%	P=0.691
	有	6	2	6	33.33%	
	A	5	2	6	40.00%	P=1.000
	B	1			0.00%	
既往歴有無	無	140	63	104	45.00%	P=0.810
	有	137	64	120	46.72%	
	不明・未記載	9	4	8	44.44%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	178	72	127	40.45%	P=0.001 **
	有	73	46	85	63.01%	
	不明・未記載	35	13	20	37.14%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には浮動性めまい(10.5%)、発疹(6.6%)、貧血(6.6%)、悪心(5.9%)があり、  
 器官分類別では、胃腸障害(12.6%)、神経系障害(12.2%)、皮膚および皮下組織障害(10.8%)において、  
 10%以上の頻度で副作用が発現していた。  
 詳細は次表を参照。



表20. 組合 9

## コンビビル+ストックリン併用例の副作用発現状況

副作用等の種類	例数(%)
調査施設数	34
調査症例数	286
副作用等の発現症例数	131 (45.80%)
副作用等の発現件数	232
副作用等の種類	
感染症および寄生虫症	5例 (1.75)
帯状疱疹	2 (0.70)
結核性胸膜炎	1 (0.35)
サイトメガロウイルス性脈絡網膜炎	1 (0.35)
梅毒	1 (0.35)
良性、悪性および詳細不明の新生物(嚢胞およびホリフを含む)	2例 (0.70)
加齢肉腫	1 (0.35)
前立腺癌	1 (0.35)
血液およびリンパ系障害	21例 (7.34)
貧血	19 (6.64)
鉄欠乏性貧血	1 (0.35)
汎血球減少症	1 (0.35)
免疫系障害	1例 (0.35)
過敏症	1 (0.35)
内分泌障害	1例 (0.35)
甲状腺機能低下症	1 (0.35)
代謝および栄養障害	21例 (7.34)
食欲不振	3 (1.05)
糖尿病	3 (1.05)
高コレステロール血症	2 (0.70)
高トリグリセリド血症	3 (1.05)
高アルカリホスファターゼ血症	1 (0.35)
高脂血症	10 (3.50)
やせ	1 (0.35)
精神障害	12例 (4.20)
異常な夢	3 (1.05)
不安	1 (0.35)
自殺既遂	1 (0.35)
うつ病	2 (0.70)
不眠症	4 (1.40)
神経症	1 (0.35)
神経系障害	35例 (12.24)
注意力障害	1 (0.35)
浮動性めまい	30 (10.49)
味覚異常	1 (0.35)
顔面神経麻痺	1 (0.35)
頭痛	3 (1.05)
感覚鈍麻	1 (0.35)
神経痛	1 (0.35)
傾眠	2 (0.70)
耳および迷路障害	1例 (0.35)
回転性めまい	1 (0.35)
心臓障害	1例 (0.35)
狭心症	1 (0.35)
呼吸器、胸郭および縦隔障害	2例 (0.70)
喘息	1 (0.35)
喘鳴	1 (0.35)
胃腸障害	36例 (12.59)
腹部膨満	5 (1.75)
上腹部痛	2 (0.70)
便秘	2 (0.70)
下痢	5 (1.75)
消化不良	3 (1.05)
鼓腸	1 (0.35)
胃炎	5 (1.75)
吐血	1 (0.35)
血便排泄	1 (0.35)
悪心	17 (5.94)
急性膵炎	1 (0.35)
胃不快感	2 (0.70)
肝胆道系障害	11例 (3.85)
肝機能異常	8 (2.80)
脂肪肝	1 (0.35)
肝障害	2 (0.70)

皮膚および皮下組織障害	31例 (10.84)
円形脱毛症	1 (0.35)
薬疹	6 (2.10)
湿疹	1 (0.35)
光線過敏性反応	1 (0.35)
発疹	19 (6.64)
後天性リシストロフィー	1 (0.35)
全身紅斑	1 (0.35)
全身性そう痒症	2 (0.70)
好酸球性膿疱性毛包炎	1 (0.35)
筋骨格系および結合組織障害	1例 (0.35)
筋痛	1 (0.35)
全身障害および投与局所様態	8例 (2.80)
熱感	2 (0.70)
倦怠感	5 (1.75)
末梢性浮腫	1 (0.35)
臨床検査	19例 (6.64)
アラニン・アミトランスフェラーゼ増加	2 (0.70)
アスパラギン酸アミトランスフェラーゼ増加	2 (0.70)
血中乳酸脱水素酵素増加	2 (0.70)
血中トリグリセリド増加	1 (0.35)
血中尿酸増加	1 (0.35)
-グルタミトランスフェラーゼ増加	4 (1.40)
ヘモグロビン減少	2 (0.70)
血小板数減少	1 (0.35)
赤血球数減少	2 (0.70)
体重減少	1 (0.35)
白血球数減少	7 (2.45)

レトロビル+エピビル+カレトラ併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		173	58	95	33.53%	
性別	男	151	52	86	34.44%	P=0.632
	女	22	6	9	27.27%	
年齢	14歳	3			0.00%	P=0.255
	15歳 64歳	167	56	91	33.53%	
	65歳	3	2	4	66.67%	
人種	日本人	154	53	86	34.42%	P=0.610
	その他	19	5	9	26.32%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	51	11	15	21.57%	P=0.035 *
有	122	47	80	38.52%		
併用療法有無	無	164	52	84	31.71%	P=0.062
有	9	6	11	66.67%		
合併症有無	無	54	21	31	38.89%	P=0.385
有	119	37	64	31.09%		
合併症肝障害	無	138	47	78	34.06%	P=0.843
	有	35	11	17	31.43%	
	肝炎	30	10	16	33.33%	
血友病	無	155	54	91	34.84%	P=0.429
	有	18	4	4	22.22%	
	A	14	4	4	28.57%	P=0.524
	B	4			0.00%	
既往歴有無	無	72	22	39	30.56%	P=0.511
	有	96	35	55	36.46%	
	不明・未記載	5	1	1	20.00%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	112	37	66	33.04%	P=1.000
	有	42	14	18	33.33%	
	不明・未記載	19	7	11	36.84%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には高脂血症(9.2%)、下痢(5.2%)、血中トリグリセリド増加(5.2%)があり、器官分類別では、代謝および栄養障害(11.6%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。詳細は次表を参照。

表22. 組合 10

## レトロビル + エピビル + カレトラ併用例の副作用発現状況

調査施設数	41
調査症例数	173
副作用等の発現症例数	58 (33.53%)
副作用等の発現件数	95
副作用等の種類	例数(%)
感染症および寄生虫症	1例 (0.58)
鼻咽頭炎	1 (0.58)
血液およびリンパ系障害	11例 (6.36)
貧血	8 (4.62)
大球性貧血	1 (0.58)
白血球減少症	1 (0.58)
好中球減少症	1 (0.58)
汎血球減少症	1 (0.58)
骨髓機能不全	1 (0.58)
内分泌障害	1例 (0.58)
甲状腺機能亢進症	1 (0.58)
代謝および栄養障害	20例 (11.56)
糖尿病	1 (0.58)
高血糖	1 (0.58)
高トリグリセリド血症	3 (1.73)
低カルシウム血症	1 (0.58)
高脂血症	16 (9.25)
精神障害	1例 (0.58)
不快気分	1 (0.58)
神経系障害	2例 (1.16)
頭痛	1 (0.58)
麻痺	1 (0.58)
心臓障害	2例 (1.16)
急性心筋梗塞	1 (0.58)
左室不全	1 (0.58)
心筋梗塞	1 (0.58)
呼吸器、胸郭および縦隔障害	1例 (0.58)
肺水腫	1 (0.58)
胃腸障害	16例 (9.25)
下痢	9 (5.20)
胃腸障害	1 (0.58)
悪心	6 (3.47)
膵炎	1 (0.58)
再発性膵炎	1 (0.58)
嘔吐	1 (0.58)
肝胆道系障害	5例 (2.89)
アルコール性肝疾患	1 (0.58)
胆石症	1 (0.58)
肝機能異常	2 (1.16)
肝障害	1 (0.58)
皮膚および皮下組織障害	4例 (2.31)
発疹	3 (1.73)
後天性リポソドロフィー	1 (0.58)
筋骨格系および結合組織障害	1例 (0.58)
筋炎	1 (0.58)
臨床検査	17例 (9.83)
血中トリグリセリド増加	9 (5.20)
血中尿酸増加	1 (0.58)
-グルタミルトランスフェラーゼ増加	2 (1.16)
尿中ブドウ糖陽性	1 (0.58)
ヘモグロビン減少	3 (1.73)
血小板数減少	1 (0.58)
赤血球数減少	2 (1.16)
白血球数減少	1 (0.58)
血中アルカリホスファターゼ増加	1 (0.58)
傷害、中毒および処置合併症	1例 (0.58)
腰椎骨折	1 (0.58)

エピビル + ザイアジェン + カレトラ併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		111	46	82	41.44%	
性別	男	103	44	80	42.72%	P=0.466
	女	8	2	2	25.00%	
年齢	14歳	0			-	P=1.000
	15歳 - 64歳	105	44	79	41.90%	
	65歳	6	2	3	33.33%	
人種	日本人	106	45	81	42.45%	P=0.401
	その他	5	1	1	20.00%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	25	8	14	32.00%	P=0.358
	有	86	38	68	44.19%	
併用療法有無	無	104	43	78	41.35%	P=1.000
	有	7	3	4	42.86%	
合併症有無	無	18	10	20	55.56%	P=0.202
	有	93	36	62	38.71%	
合併症肝障害	無	88	37	66	42.05%	P=1.000
	有	23	9	16	39.13%	
	肝炎	19	7	11	36.84%	
血友病	無	101	43	79	42.57%	P=0.519
	有	10	3	3	30.00%	
	A	8	2	2	25.00%	P=1.000
	B	2	1	1	50.00%	
既往歴有無	無	18	4	5	22.22%	P=0.114
	有	91	41	76	45.05%	
	不明・未記載	2	1	1	50.00%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	43	14	24	32.56%	P=0.395
	有	50	21	39	42.00%	
	不明・未記載	18	11	19	61.11%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には高脂血症(14.4%)、血中トリグリセリド増加(9.9%)、下痢(6.3%)、悪心(6.3%)があり、  
器官分類別では、代謝および栄養障害(16.2%)、臨床検査(16.2%)、胃腸障害(10.8%)において、  
10%以上の頻度で副作用が発現していた。  
詳細は次表を参照。

表24. 組合 12

## エピビル+ ザイアジェン+ カレトラ併用例の副作用発現状況

調査施設数	21
調査症例数	111
副作用等の発現症例数	46 (41.44%)
副作用等の発現件数	82
副作用等の種類	例数(%)
代謝および栄養障害	18例 (16.22)
耐糖能障害	1 (0.90)
高コレステロール血症	1 (0.90)
高トリグリセリド血症	1 (0.90)
高脂血症	16 (14.41)
精神障害	1例 (0.90)
うつ病	1 (0.90)
神経系障害	5例 (4.50)
痙攣	1 (0.90)
味覚異常	1 (0.90)
頭痛	2 (1.80)
感覚鈍麻	1 (0.90)
心臓障害	2例 (1.80)
不整脈	1 (0.90)
徐脈	1 (0.90)
伝導障害	1 (0.90)
血管障害	2例 (1.80)
高血圧	1 (0.90)
血栓性閉塞性血管炎	1 (0.90)
深部静脈血栓症	1 (0.90)
呼吸器、胸郭および縦隔障害	2例 (1.80)
喘息	1 (0.90)
肺塞栓症	1 (0.90)
胃腸障害	12例 (10.81)
上腹部痛	1 (0.90)
下痢	7 (6.31)
胃腸障害	1 (0.90)
悪心	7 (6.31)
嘔吐	1 (0.90)
肝胆道系障害	3例 (2.70)
肝機能異常	3 (2.70)
筋骨格系および結合組織障害	2例 (1.80)
骨壊死	1 (0.90)
筋骨格硬直	1 (0.90)
生殖系および乳房障害	1例 (0.90)
女性化乳房	1 (0.90)
全身障害および投与局所様態	2例 (1.80)
無力症	1 (0.90)
倦怠感	1 (0.90)
臨床検査	18例 (16.22)
アミン・アミノトランスフェラーゼ 増加	1 (0.90)
血中コレステロール増加	2 (1.80)
血中トリグリセリド 増加	11 (9.91)
血中尿酸増加	5 (4.50)
-グルタミルトランスフェラーゼ 増加	1 (0.90)
尿中ブドウ糖陽性	1 (0.90)
血中アルカリホスファターゼ 増加	2 (1.80)
傷害、中毒および処置合併症	1例 (0.90)
硬膜下血腫	1 (0.90)

表25. 組合 17

ツルバダ+ノーピア+レクシヴァ併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		25	3	5	12.00%	
性別	男	23	3	5	13.04%	P=1.000
	女	2			0.00%	
年齢	14歳	0			-	P=1.000
	15歳 64歳	24	3	5	12.50%	
	65歳	1			0.00%	
人種	日本人	24	3	5	12.50%	P=1.000
	その他	1			0.00%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	10	1	3	10.00%	P=1.000
	有	15	2	2	13.33%	
併用療法有無	無	25	3	5	12.00%	-
	有	0			-	
合併症有無	無	11	1	3	9.09%	P=1.000
	有	14	2	2	14.29%	
合併症肝障害	無	19	3	5	15.79%	P=0.554
	有	6			0.00%	
	肝炎	5			0.00%	
血友病	無	24	3	5	12.50%	P=1.000
	有	1			0.00%	
	A	0			-	
	B	1			0.00%	
既往歴有無	無	12	1	3	8.33%	P=1.000
	有	13	2	2	15.38%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	21	3	5	14.29%	P=1.000
	有	2			0.00%	
	不明・未記載	2			0.00%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には高トリグリセリド血症(8.0%)があり、  
器官分類別では、代謝および栄養障害(12.0%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。  
詳細は次表を参照。

表26. 組合 17

## ツルバダ + ノーピア + レクシヴァ併用例の副作用発現状況

調査施設数	14
調査症例数	25
副作用等の発現症例数	3 (12.00%)
副作用等の発現件数	5
副作用等の種類	例数(%)
感染症および寄生虫症	1例 (4.00)
クラミア性尿道炎	1 (4.00)
代謝および栄養障害	3例 (12.00)
高トリグリセリド血症	2 (8.00)
高脂血症	1 (4.00)
肝胆道系障害	1例 (4.00)
肝障害	1 (4.00)

エピビル+ ザイアジェン+ ピラミューン併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果
計		20	10	16	50.00%	(Fisher)
性別	男	16	10	16	62.50%	P=0.087
	女	4			0.00%	
年齢	14歳	0			-	P=1.000
	15歳 64歳	19	9	15	47.37%	
	65歳	1	1	1	100.00%	
人種	日本人	18	10	16	55.56%	P=0.474
	その他	2			0.00%	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	8	4	7	50.00%	P=1.000
	有	12	6	9	50.00%	
併用療法有無	無	20	10	16	50.00%	-
	有	0			-	
合併症有無	無	5	3	6	60.00%	P=1.000
	有	15	7	10	46.67%	
合併症肝障害	無	15	9	14	60.00%	P=0.303
	有	5	1	2	20.00%	
	肝炎	2	1	2	50.00%	
血友病	無	19	9	14	47.37%	P=1.000
	有	1	1	2	100.00%	
	A	1	1	2	100.00%	-
	B	0			-	
既往歴有無	無	2			0.00%	P=0.474
	有	18	10	16	55.56%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	3	2	4	66.67%	P=0.559
	有	10	4	7	40.00%	
	不明・未記載	7	4	5	57.14%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には、γ-グルタミルトランスフェラーゼ増加(25.0%)、耐糖能障害(5.0%)、高血糖(5.0%)、抑うつ気分(5.0%)、高血圧(5.0%)、腹痛(5.0%)、悪心(5.0%)、発疹(5.0%)、アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加(5.0%)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加(5.0%)、血中コレステロール増加(5.0%)、心雑音(5.0%)があり、器官分類別では、臨床検査(30.0%)、代謝および栄養障害(10.0%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。詳細は次表を参照。



表28. 組合 25 エピビル + ザイアジェン + ビラミューン併用例の副作用発現状況

調査施設数	4
調査症例数	20
副作用等の発現症例数	10 (50.00%)
副作用等の発現件数	16
副作用等の種類	例数(%)
代謝および栄養障害	2例 (10.00)
耐糖能障害	1 (5.00)
高血糖	1 (5.00)
精神障害	1例 (5.00)
抑うつ気分	1 (5.00)
血管障害	1例 (5.00)
高血圧	1 (5.00)
胃腸障害	1例 (5.00)
腹痛	1 (5.00)
悪心	1 (5.00)
皮膚および皮下組織障害	1例 (5.00)
発疹	1 (5.00)
臨床検査	6例 (30.00)
アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加	1 (5.00)
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加	1 (5.00)
血中コレステロール増加	1 (5.00)
心雑音	1 (5.00)
-グルタミルトランスフェラーゼ増加	5 (25.00)

ピリアード+エムトリバ+ストックリン併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		10	4	4	40.00%	
性別	男	9	4	4	44.44%	P=1.000
	女	1			0.00%	
年齢	14歳	0			-	P=0.400
	15歳 64歳	9	3	3	33.33%	
	65歳	1	1	1	100.00%	
人種	日本人	10	4	4	40.00%	-
	その他	0			-	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	5	2	2	40.00%	P=1.000
	有	5	2	2	40.00%	
併用療法有無	無	10	4	4	40.00%	-
	有	0			-	
合併症有無	無	2	1	1	50.00%	P=1.000
	有	8	3	3	37.50%	
合併症肝障害	無	9	3	3	33.33%	P=0.400
	有	1	1	1	100.00%	
	肝炎	1	1	1	100.00%	
血友病	無	9	3	3	33.33%	P=0.400
	有	1	1	1	100.00%	
	A	0			-	
	B	1	1	1	100.00%	
既往歴有無	無	7	2	2	28.57%	P=0.500
	有	3	2	2	66.67%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	5	2	2	40.00%	P=1.000
	有	4	2	2	50.00%	
	不明・未記載	1			0.00%	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用にはうつ病(20.0%)、筋痛(10.0%)、失禁(10.0%)があり、  
器官分類別では、精神障害(20.0%)、筋骨格系および結合組織障害(10.0%)、腎および尿路障害(10.0%)において、  
10%以上の頻度で副作用が発現していた。  
詳細は次表を参照。

表30. 組合 51

## ビリアード+エムトリバ+ストックリン併用例の副作用発現状況

調査施設数	5
調査症例数	10
副作用等の発現症例数	4 (40.00%)
副作用等の発現件数	4
副作用等の種類	例数(%)
精神障害	2例 (20.00)
うつ病	2 (20.00)
筋骨格系および結合組織障害	1例 (10.00)
筋痛	1 (10.00)
腎および尿路障害	1例 (10.00)
失禁	1 (10.00)

表31.

レトロビル + ヴァイデックス + レスクリプター 併用例の  
患者背景別副作用発現症例率

要因		症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)	解析結果 (Fisher)
計		1	1	1	100.00%	-
性別	男	1	1	1	100.00%	-
	女	0			-	
年齢	14歳	0			-	-
	15歳 - 64歳	1	1	1	100.00%	
	65歳	0			-	
人種	日本人	1	1	1	100.00%	-
	その他	0			-	
抗HIV薬以外の 併用薬有無	無	1	1	1	100.00%	-
	有	0			-	
併用療法有無	無	1	1	1	100.00%	-
	有	0			-	
合併症有無	無	0			-	-
	有	1	1	1	100.00%	
合併症肝障害	無	0			-	-
	有	1	1	1	100.00%	
	肝炎	1	1	1	100.00%	
血友病	無	1	1	1	100.00%	-
	有	0			-	
	A	0			-	
	B	0			-	
既往歴有無	無	0			-	-
	有	1	1	1	100.00%	
アレルギー(特異体質) の有無	無	1	1	1	100.00%	-
	有	0			-	

注1) 既往歴の内容は特に限定せず集計した。

注2) アレルギー(特異体質)の内容は特に限定せず集計した。

5%以上の頻度で発現した副作用には薬疹(100.0%)があり、  
器官分類別では、皮膚および皮下組織障害(100.0%)において、10%以上の頻度で副作用が発現していた。  
詳細は次表を参照。

表32.

## レトロビル+ヴァイデックス+レスクリプター併用例の副作用発現状況

調査施設数	3
調査症例数	1
副作用等の発現症例数	1 (100.00%)
副作用等の発現件数	1
副作用等の種類	例数(%)
皮膚および皮下組織障害	1例 (100.00)
薬疹	1 (100.00)

表33. 患者背景要因 (CMV感染症治療薬)

テノシカフセル、ハリキサいずれかの薬剤を使用している症例を対象

使用理由	CMV網膜炎, その他のCMV感染症, その他
性別	
年齢	テノシカフセル, ハリキサの初回投与日での年齢を算出
人種	日本人, その他
CMV治療薬以外の併用薬有無	テノシカフセル, ハリキサの使用期間における併用有無 (CMV治療薬以外の併用薬)
併用療法有無	テノシカフセル, ハリキサの使用期間における併用療法の併用有無
CMVを除いた合併症有無	CMVを除く
合併症肝障害	
血友病有無	
血友病A B	血友病有の症例のみでカウント
既往歴有無	
アレルギー有無	
投与開始前CD4リンパ球数	テノシカフセル, ハリキサの初回投与開始日、なければ投与前 (30日以内) のCD4の検査値

これらの要因を用いて安全性の集計を行う。

要因		注1) 症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)
計		171	42	65	24.56%
使用理由	CMV網膜炎	90	19	28	21.11%
	その他のCMV感染症	71	21	33	29.58%
	その他	10	2	4	20.00%
性別	男	154	38	59	24.68%
	女	17	4	6	23.53%
年齢	14歳	2	1	3	50.00%
	15歳 64歳	167	40	61	23.95%
	65歳	2	1	1	50.00%
人種	日本人	163	40	60	24.54%
	その他	8	2	5	25.00%
CMV治療薬以外の 併用薬有無	無	5	2	3	40.00%
	有	166	40	62	24.10%
	不明・未記載	0			-
併用療法有無	無	161	39	61	24.22%
	有	10	3	4	30.00%
CMVを除いた 合併症有無	無	24	4	5	16.67%
	有	146	38	60	26.03%
	不明・未記載	1			0.00%
合併症肝障害	無	134	33	50	24.63%
	有	36	9	15	25.00%
	肝炎	22	5	8	22.73%
	不明・未記載	1			0.00%
血友病	無	161	40	62	24.84%
	有	9	2	3	22.22%
	A	5			0.00%
	B	4	2	3	50.00%
	不明・未記載	1			0.00%
既往歴有無	無	69	11	20	15.94%
	有	98	30	44	30.61%
	不明・未記載	4	1	1	25.00%
アレルギー(特異体質) の有無	無	98	23	39	23.47%
	有	49	15	21	30.61%
	不明・未記載	24	4	5	16.67%
投与開始時 CD4リンパ球数	< 50	59	19	32	32.20%
	50 100	18	6	9	33.33%
	100 <	18	3	4	16.67%
	不明・未記載	76	14	20	18.42%

注1) デノソクマブセル、マリキサイづれかを使用している症例(HIV患者以外に使用された症例を含む)

表35. 患者背景要因 (MAC感染症治療薬)

クラリスロマイシン、ジスロマック錠600mgいずれかの薬剤を使用している症例を対象

性別	
年齢	クラリスロマイシン, 又はジスロマック錠600mgの初回投与日での年齢を算出
人種	日本人、その他
使用目的	治療、予防
併用薬有無*	クラリスロマイシン, 又はジスロマック錠600mgの使用期間における併用有無 併用薬(クラリスロマイシン, 又はジスロマック錠600mg以外の全ての薬剤)の有無
併用薬(抗HIV薬)有無	クラリスロマイシン, 又はジスロマック錠600mgの使用期間における併用有無 併用薬(抗HIV薬)の有無
併用薬(抗MAC抗菌薬**)有無	クラリスロマイシン, 又はジスロマック錠600mgの使用期間における併用有無 MAC感染症に抗菌力を有する併用薬(抗結核剤、硫酸ストレプトマイシン、サイクロセリン、リファンピ シリン、硫酸カナマイシン、硫酸エソトマイシン、硫酸アミカシン、イミダネム・シラスチンナトリウム、クロファジミ ン、ニューキノロン(CPFX、SPFX、LVFX、OFLX)、リファブチン、セフトリアキソンナトリウム、フロモキシセフナト リウム、ロキシロマイシン、塩酸ミノサイクリン)の有無
併用療法有無	クラリスロマイシン, 又はジスロマック錠600mgの使用期間における併用療法の併用有無
MACを除いた合併症有無	MACを除く
既往歴有無	
アレルギー有無	

\*:クラリスロマイシンとジスロマック併用例で、他剤の併用のない症例を除く

\*\* :クラリスロマイシンとジスロマック併用例で、他の抗MAC抗菌薬の併用のない症例を除く

これらの要因を用いて安全性の集計を行う。



要因		注1) 症例数	副作用発現 症例数	副作用発現 件数	副作用発現 症例率(%)
計		510	86	137	16.86%
性別	男	453	73	114	16.11%
	女	57	13	23	22.81%
年齢	14歳	1			0.00%
	15歳 64歳	498	81	128	16.27%
	65歳	11	5	9	45.45%
人種	日本人	461	75	118	16.27%
	その他	49	11	19	22.45%
使用目的	治療	158	34	63	21.52%
	予防	406	67	104	16.50%
併用薬有無	無	2	1	1	50.00%
	有	508	85	136	16.73%
併用薬(抗HIV薬)有無	無	8	2	3	25.00%
	有	502	84	134	16.73%
併用薬(抗MAC抗菌薬)有無	無	339	51	74	15.04%
	有	171	35	63	20.47%
併用療法有無	無	455	70	117	15.38%
	有	55	16	20	29.09%
MACを除いた 合併症有無	無	86	12	17	13.95%
	有	424	74	120	17.45%
既往歴有無	無	173	28	53	16.18%
	有	325	56	82	17.23%
	不明・未記載	12	2	2	16.67%
アレルギー(特異体質) の有無	無	321	38	57	11.84%
	有	128	30	52	23.44%
	不明・未記載	61	18	28	29.51%

注1)ケリスロマイシン又はシスロマック錠600mg使用症例



表37-1. 抗HIV薬別重篤な副作用・感染症の発現状況一覧表

対象薬剤名	核酸系逆転写酵素阻害剤											非核酸系逆転写酵素阻害剤			プロテアーゼ阻害剤							全体		
	レトロビル	ウイデックス	ハイビット	エビビル	ゼリット	コンビル	サイアジェン	ビリアード	エプシコム	エムトリバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシン	インビラセ	ノービア	ビラセプト	プローセ	フォートハイイス	カレトラ		レイアタック	レクシウア
副作用等の発現症例数	204	79	17	285	228	44	59	40	19	3	14	29	152	0	128	37	94	114	8	5	81	47	7	633
副作用等の発現件数	278	123	22	456	347	50	95	65	33	7	19	56	218	0	182	61	129	169	13	10	129	57	8	1071
血液およびリンパ系障害	90例	8例	7例	59例	25例	18例	7例	4例	1例	1例		6例	18例		9例	7例	9例	15例	3例		8例	3例		140例
無顆粒球症	2			1								2						1						2
貧血	59	4	3	27	9	13	1					2	6		5	3	5	5	1		3	2		83
大球性貧血	1			1																				1
赤芽球癆	1			1											1									1
再生不良性貧血				1	1													1						1
播種性血管内凝固		1		1	1		1	1					1											2
顆粒球減少症	2	1										1												2
溶血性貧血							1					1							1					1
肺門リンパ節腫脹				1				1					1											1
脾機能亢進				1														1						1
鉄欠乏性貧血							1	1														1		1
白血球減少症	7	1	1	7	3		1						1		2	1	1				1			9
リンパ節症			1	4	1			1					2											4
縦隔リンパ節腫脹				1				1					1											1
好中球減少症	4			3	3	1							2		1	1	1					1		7
汎血球減少症	15	1		10	2	4			1				4		2	1	2	1			3			21
血小板減少症	5	2	1	4	2		2					2			1	2	2							7
血栓性血小板減少性紫斑病							1					1							1					1
出血性素因	1		1	4	3										1	1	1	3						5
骨髄機能不全	6		1	1	1	1		1		1			2				1	1			1			9
免疫系障害				7例	7例	1例	1例	1例	2例		1例		2例		1例		6例	1例		1例	2例	3例	3例	13例
薬物過敏症											1						2					1		2
過敏症									1															1
免疫再構築症候群				7	7	1	1	1	1				2		1		4	1		1	2	2	3	10
内分泌障害	3例			5例	2例								3例				1例	1例			1例			6例
ハセドウ病				1	1								1											1
クッシング症候群																	1							1
甲状腺機能亢進症	2			2									1								1			2
甲状腺機能低下症				1	1								1											1
抗利尿ホルモン不適合分泌	1			1														1						1
代謝および栄養障害	9例	14例	1例	35例	44例	3例	3例	1例	1例			4例	15例		9例	5例	5例	13例			10例	2例	1例	70例
食欲不振	1	1		1	1				1			1			1						2			4
悪液質		1			1		1						1					1			1			1
脱水		1		1																				1
糖尿病		2		3	3	2	1					1	3		2	1	1	5				1		13
耐糖能障害				2	1							1			1						1			2
高アンモニア血症				1														1						1
高コレステロール血症													1				1							1
高血糖	3			4	2										1									5
高乳酸血症	1			8	11			1					3			1	2				3	1		13
高トリグリセリド血症				1	1								1				2							3
高尿酸血症				1	1										1									1
低血糖症			1																					1
低カリウム血症	1			1																	1			1
ケトシス															1									1
乳酸アシトシス	3	10		10	21	1	1					1	5		2	3	1	2		2				23
体脂肪異常				1	1											1	1							1
高脂血症				2	2								1					1						2
1型糖尿病				1	1								1											1
2型糖尿病				1	1													1					1	2



表37-1. 抗HIV薬別重篤な副作用・感染症の発現状況一覧表

対象薬剤名	核酸系逆転写酵素阻害剤											非核酸系逆転写酵素阻害剤			プロテアーゼ阻害剤							全体		
	レトロビル	ウイデックス	ハイビット	エビビル	ゼリット	コンビル	サイアジェン	ビリアード	エプソム	エムトリバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキサン	インビラセ	ノービア	ビラセプト	プローセ	フォートハイス	カレトラ		レイアタック	レクシヴァ
副作用等の発現症例数	204	79	17	285	228	44	59	40	19	3	14	29	152	0	128	37	94	114	8	5	81	47	7	633
副作用等の発現件数	278	123	22	456	347	50	95	65	33	7	19	56	218	0	182	61	129	169	13	10	129	57	8	1071
心臓障害	8例	6例		11例	8例	2例	2例		1例				4例		1例	1例	3例	9例			14例	2例		30例
急性心筋梗塞	2			5	3								1					4			1			6
狭心症						1							1											1
不整脈	1	1															1	1			1			2
心房細動	1	1																						1
房室ブロック	1	1																						1
完全房室ブロック		1																			3			3
第二度房室ブロック		1																			1			1
徐脈		1																			2	1		2
心不全	1							1					1		1									2
うっ血性心不全		1			1													1						1
心肺停止	1	1		2	1												1	1				1		2
伝導障害							1														1			1
左室不全	1			2	1								1									1		2
心筋梗塞	2			2		1												1				2		3
心筋虚血	1			1														1				1		1
動悸		1			1		1														2			3
洞不全症候群																		1						1
洞停止															1	1					1			1
洞性頻脈																					1			1
頻脈		1		1	2													1			2			3
心室性期外収縮																		1						1
徐脈性不整脈																					1			1
うっ血性心筋症	1																							1
血管障害	2例			7例	4例		1例						1例		2例		3例	3例		1例	1例			8例
ショック				1	1													1						1
血栓性静脈炎																		1						1
出血性ショック				1	1												1			1				1
深部静脈血栓症				2	1		1											1			1			2
出血	1			1											1		1							1
四肢静脈血栓症	1			2	1								1		1		1							2
呼吸器、胸郭および縦隔障害	5例	1例		8例	3例	1例	4例		1例	1例	1例		4例		2例	1例	4例	1例		1例	2例	2例		15例
発声障害				1	1													1						1
呼吸困難							1		1				1											2
労作性呼吸困難	1			1											1									1
間質性肺疾患						1	2				1											1		2
肺臓炎													1											1
気胸	1			1													1			1				1
肺塞栓症	1			2			1						1								1			2
肺高血圧症	1	1		2	1									1	1	1								2
肺梗塞					1												1					1		1
肺水腫	1			1																	1			1
呼吸不全						1	1				1	1					1					1		2

表37-1. 抗HIV薬別重篤な副作用・感染症の発現状況一覧表

対象薬剤名	核酸系逆転写酵素阻害剤											非核酸系逆転写酵素阻害剤			プロテアーゼ阻害剤							全体		
	レトロビル	ウアイデックス	ハイビット	エビビル	ゼリット	コンビル	サイアジェン	ビリアード	エプシコム	エムトリバ	ツルバダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシル	インビラセ	ノービア	ビラセプト	プロセ	フォートハイス	カレトラ		レイアタック	レクシヴァ
副作用等の発現症例数	204	79	17	285	228	44	59	40	19	3	14	29	152	0	128	37	94	114	8	5	81	47	7	633
副作用等の発現件数	278	123	22	456	347	50	95	65	33	7	19	56	218	0	182	61	129	169	13	10	129	57	8	1071
胃腸障害	16例	21例	2例	32例	32例	3例	11例	6例	3例	1例	2例	2例	16例		13例	8例	14例	18例	3例	1例	15例	3例		86例
腹痛		1		2	3		1								1			1						4
下腹部痛															1									1
上腹部痛	1			2											1									2
急性腹症		1		1	3		1											2				1		3
腹水	2	2		1	2		1		1				2									2		4
下痢	3	1		6	6		2								1	1	4				3			10
出血性十二指腸潰瘍				1	1								1											1
嚥下障害				1	1													1						1
出血性腸炎		1																						1
胃出血																1								1
胃潰瘍	2	3		1			1	1							1						1			4
胃腸出血		2		2	2								1			2	2	3		1				7
歯肉出血															1		1							1
吐血							1						1											1
血便排泄							1						1											1
腸閉塞															1									1
ムナ		1		1	1			1				1					1	1				1		3
悪心	5			6	2	1	2	1	1			1	2		6	1	3	2	1		4			18
食道静脈瘤出血	1			1							1		1											1
膵炎	2	3		3	2								1					1			1			6
急性膵炎		6		3	8		2	2	1		1		4		1		1	2			3	1		11
出血性膵炎		1			1											1	1							1
再発性膵炎	1			2			1											1			1			2
腹膜出血													1									1		2
口内炎			1	1	1	1							1		1	1	1	1						2
嘔吐	3			6	2	1	2	2		1			3		3	2	3	2	1		3			15
下部消化管出血	1		1															1						1
食道静脈瘤		1		3	1			1									1	2				1		3
腹腔内出血																		1						1
肝胆道系障害	20例	17例	4例	39例	36例	1例	7例	6例	5例			4例	17例		10例	9例	12例	14例	1例	2例	13例	8例		78例
急性肝不全		1																1						1
胆管炎		1			1											1	1							1
急性胆嚢炎	1	1					1	1					1								2			2
肝硬変	1	4	1	2	5		1	1					2				2	1				2		6
肝不全		2		3	5		1						2			1	1			1	3			7
肝機能異常	9	4	2	17	14		3	2	2			2	5		4	5	6	6		1	3	3		31
肝炎	1	1		3	3								1					3						4
急性肝炎	1			1																				1
劇症肝炎	1	1		2				1	1			1	2								2			3
肝脾腫大				1				1					1											1
高ビリルビン血症																								1
黄疸	2	2		3	2	1	1	1	1			1	1		2		1	1			3	2		8
胆汁うっ滞性黄疸		1			1											1	1							1
肝障害	3	2		5	3		1	1	3				6				1	3	1	1	3	2		13
肝損傷	4	1	1	7	5							1			4	2	1							10

表37-1. 抗HIV薬別重篤な副作用・感染症の発現状況一覧表

対象薬剤名	核酸系逆転写酵素阻害剤											非核酸系逆転写酵素阻害剤			プロテアーゼ阻害剤							全体		
	レトロビル	ウアイデックス	ハイビット	エビビル	ゼリット	コンビル	サイアジェン	ビリアード	エプシコム	エムトリバ	ツルハダ	ビラミューン	ストックリン	レスクリプター	クリキシン	インビラセ	ノービア	ビラセプト	プロセ	フォートバイス	カレトラ		レイアタック	レクシヴァ
副作用等の発現症例数	204	79	17	285	228	44	59	40	19	3	14	29	152	0	128	37	94	114	8	5	81	47	7	633
副作用等の発現件数	278	123	22	456	347	50	95	65	33	7	19	56	218	0	182	61	129	169	13	10	129	57	8	1071
皮膚および皮下組織障害	9例	3例		24例	19例	1例	9例	4例	5例	1例	3例	12例	33例		7例		8例	18例	2例		5例	3例	2例	74例
脱毛症								1																1
薬疹	2	2		9	6		2	1	2		1	1	12		2		3	4			1	2	1	19
紅斑											1		2											2
多形紅斑		1			1		1						1		1		1							2
結節性紅斑									1												1			1
皮下出血				1	1								1											1
ヘンリッ・シェンライン紫斑病	1			1														1						1
嵌入爪															2		2							2
脂肪組織萎縮症					2																			2
爪の障害				1				1									1					1		1
そう痒症											1		1											1
紫斑										1														1
発疹	3			7	6	1	6		2			8	13		2		1	11	2		3			32
紅斑性皮疹	1																							1
全身性皮疹	1			1	1						1		1					1						3
ステイブンス・ジョンソン症候群				1	1							3												3
後天性剥脱性皮膚炎				1	1													1						1
中毒性皮疹	1			1									3										1	3
脂肪肥大症				1				1					1											1
筋骨格系および結合組織障害	2例	4例		8例	8例		5例	1例	1例			2例	1例		9例	4例	5例	6例			2例	3例		30例
関節痛												1												1
背部痛	1			1											6									6
出血性関節症		1			1							1			1	2	2	3						7
筋萎縮	1														1									1
筋肉内出血															1	1	2					1		3
筋痙攣																						1		1
筋力低下		1		1	2		1									1	1							2
筋痛				2	2		2											1						4
骨軟化症		1						1													1	1		1
骨壊死		1		3	3		1		1							2	2	2			1			5
骨粗鬆症				1			1						1											1
腎および尿路障害	10例	9例	2例	20例	14例	1例	5例	14例	2例		4例	2例	8例		62例	1例	12例	7例			8例	5例		94例
尿管結石															10		1							10
尿路結石	1	1		2	1	1	1	1							25		6					1		26
血尿															6									6
水腎症	1			1											2									2
間質性腎炎				1	1			2							3							1		4
腎結石症	1		1												11									11
腎症	1			1														1						1
ネフローゼ症候群	1			2	2		1	1					1					2				1		3
神経因性膀胱		1					1						1											1
蛋白尿								1					1		1									2
腎萎縮			1												2									2
腎障害	2	1		2	2		1	2			2	1	1		3		1	1			1	2		7
腎不全		1		1	3													1						3
急性腎不全	2	2		5	3		1	4			2		3		4	1	2	1			3			13
慢性腎不全	1	2		1	2		1	1	1			1						2			1			4
腎尿管障害		1						1													1			1
後天性ファンコニ-症候群		1						1													1			1
腎機能障害	2	1		6	3		1	4	1			1	3		3		3	2			3	1		13



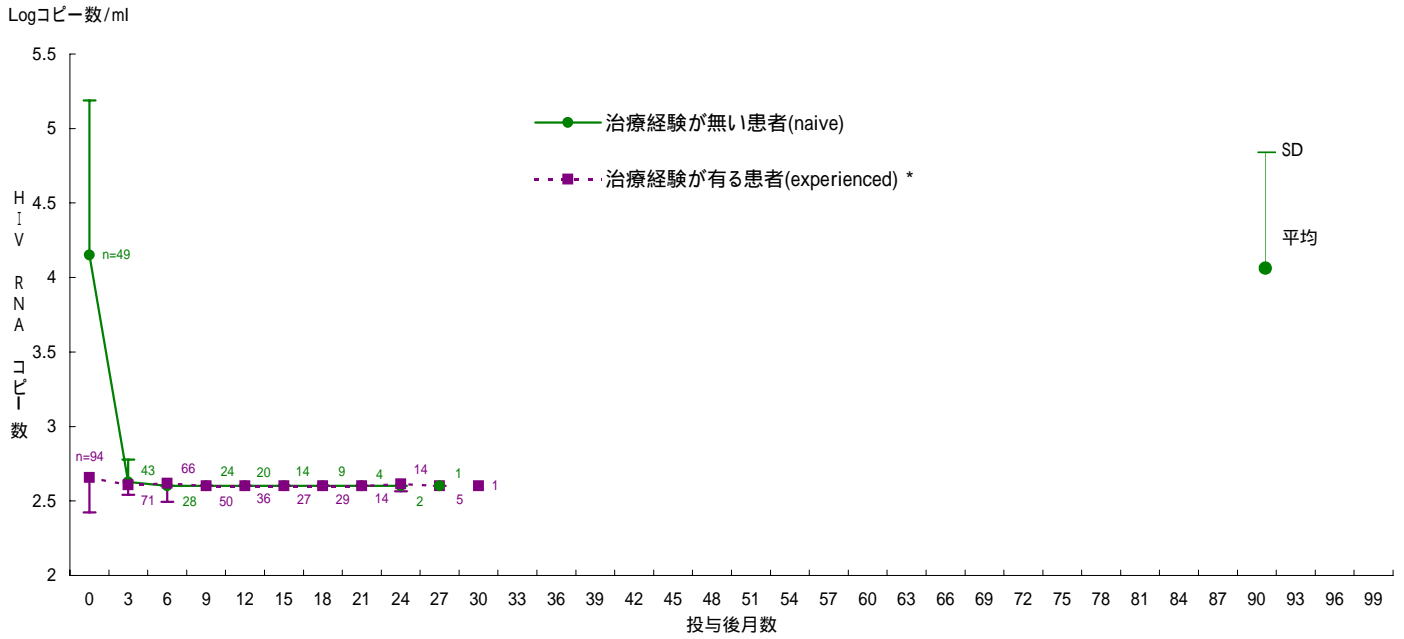
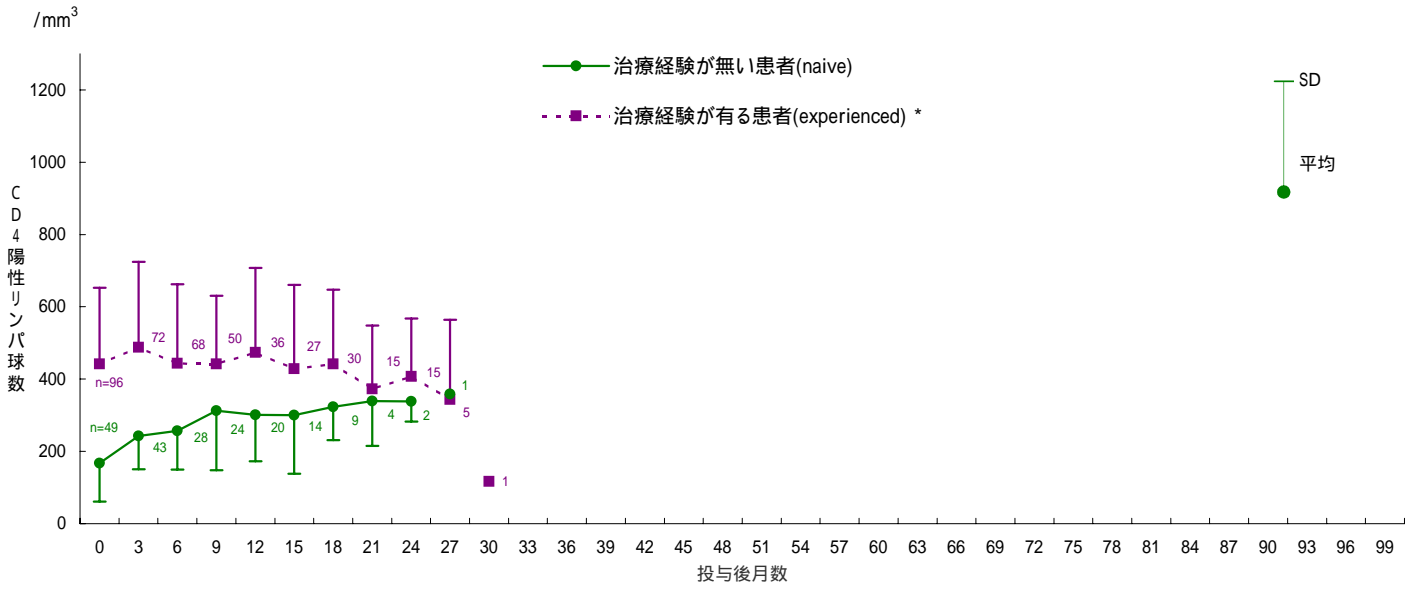


表37-2. HIV関連疾患治療薬別重篤な副作用・感染症の発現状況一覧表

対象薬剤名	抗CMV		抗MAC		カボジ肉腫	全体
	デノジン cap	ハリキサ	クラリスロマイシ ン	ジスロマック	ドキシル	
副作用等の発現症例数	9	8	15	8	0	38
副作用等の発現件数	13	11	19	8	0	49
感染症および寄生虫症				1例		1例
脳トキソプラズマ症				1		1
血液およびリンパ系障害	7例	4例	3例	4例		17例
貧血	5	2		3		9
再生不良性貧血			1			1
顆粒球減少症	1					1
白血球減少症			1			1
汎血球減少症	1	1		1		3
骨髄機能不全		2	1			3
内分泌障害			1例			1例
抗利尿ホルモン不適合分泌			1			1
代謝および栄養障害			1例			1例
食欲不振			1			1
神経系障害		1例	1例			2例
痙攣		1				1
意識消失			1			1
心臓障害			2例			2例
徐脈			1			1
心肺停止			1			1
胃腸障害			2例			2例
悪心			2			2
嘔吐			1			1
肝胆道系障害		1例	1例	1例		3例
肝不全			1			1
肝機能異常				1		1
肝障害		1				1
皮膚および皮下組織障害			1例			1例
発疹			1			1
腎および尿路障害			3例	1例		3例
急性腎不全			2	1		2
腎機能障害			1			1
生殖系および乳房障害			1例			1例
子宮頸部上皮異形成			1			1
全身障害および投与局所様態		1例				1例
発熱		1				1
臨床検査	4例	3例	2例	1例		10例
肝機能検査異常			1			1
好中球数減少		1				1
血小板数減少	1					1
赤血球数減少	1					1
白血球数減少	4	2	1	1		8

図2. 組合 1

ツルバダ + ストックリン併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



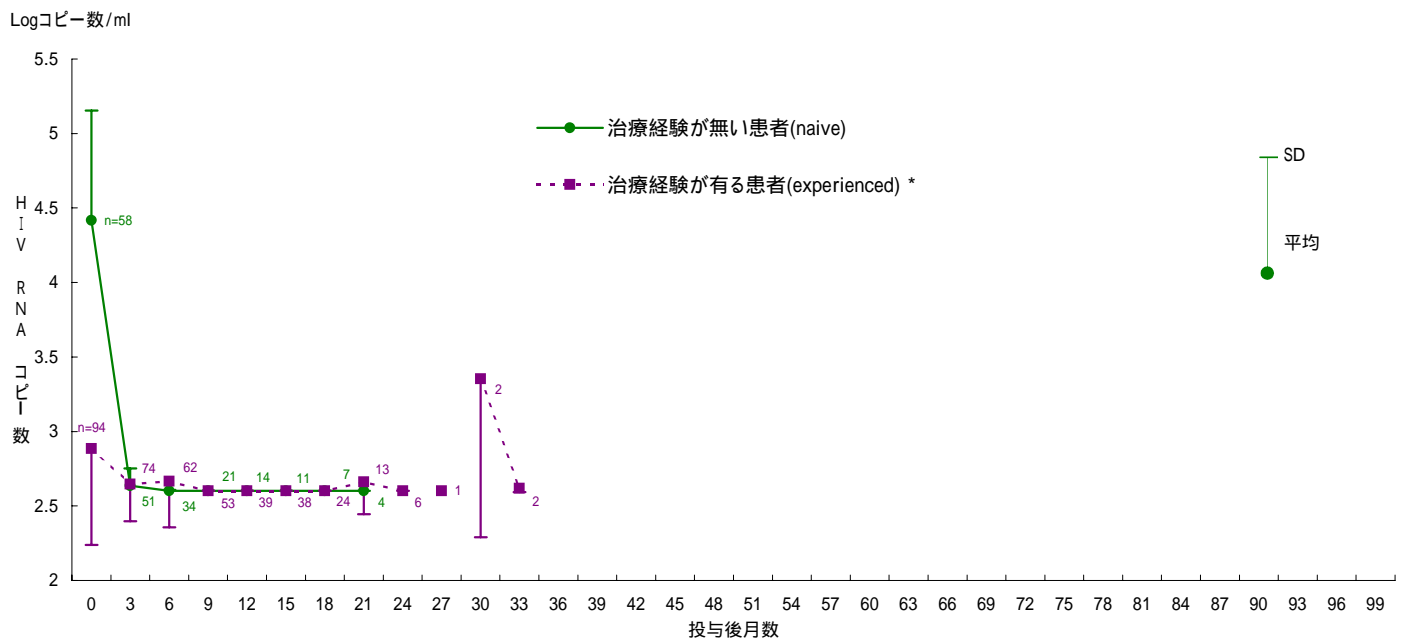
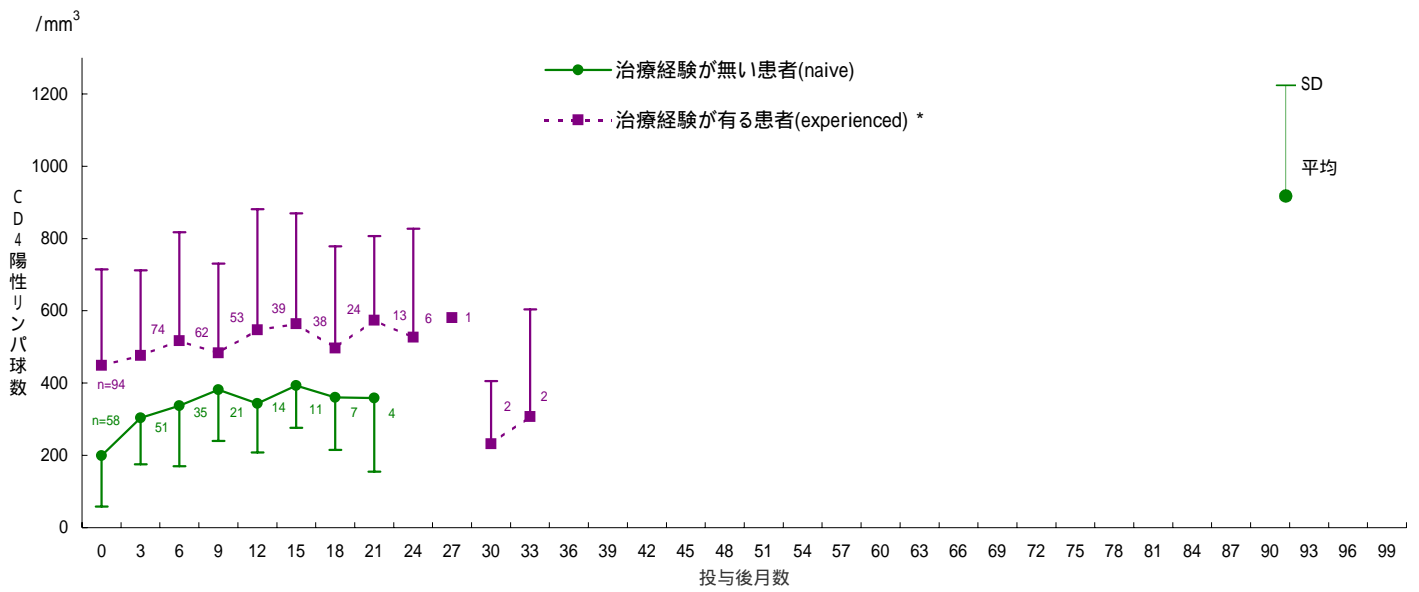
HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

2種類の核酸系逆転写酵素阻害剤の配合剤1剤と非核酸系逆転写酵素阻害剤1剤の併用療法である。  
 CD4: 治療経験の無い患者群は増加傾向にあり、治療経験の有る患者群もCD4値400/mm<sup>2</sup>を維持する傾向である。  
 RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

図3. 組合 2

ツルバダ + ノーピア + レイアッツ併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



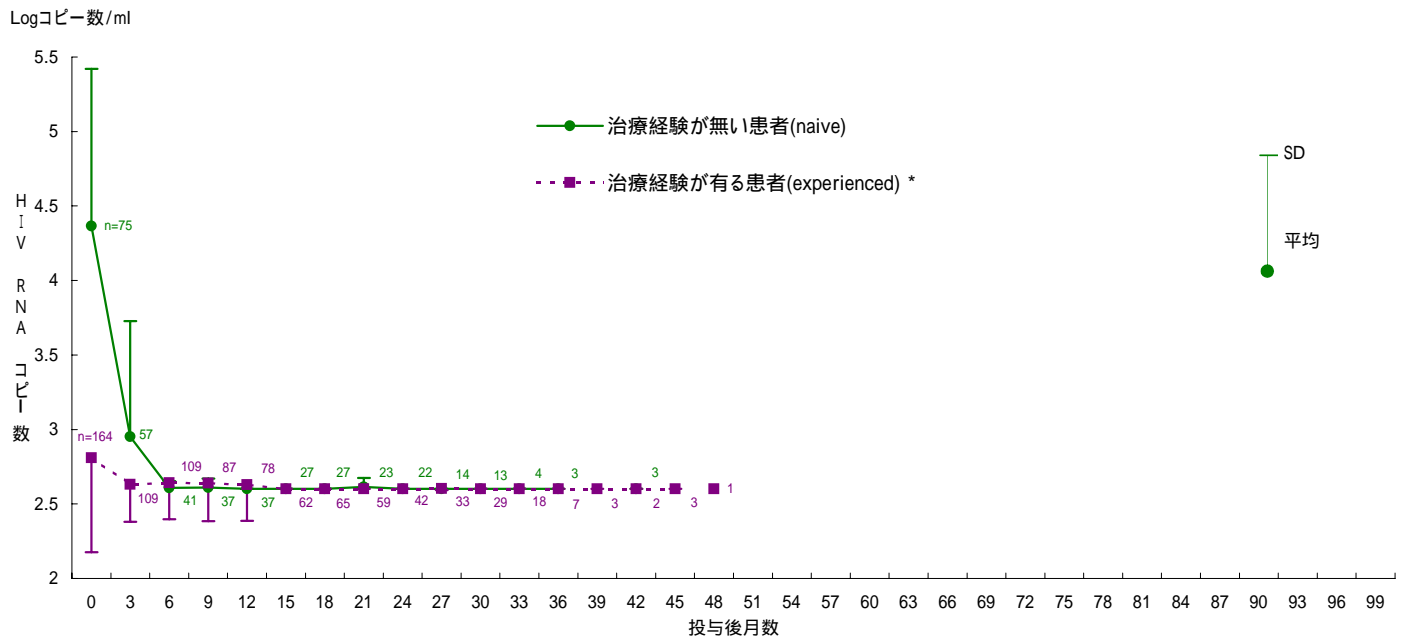
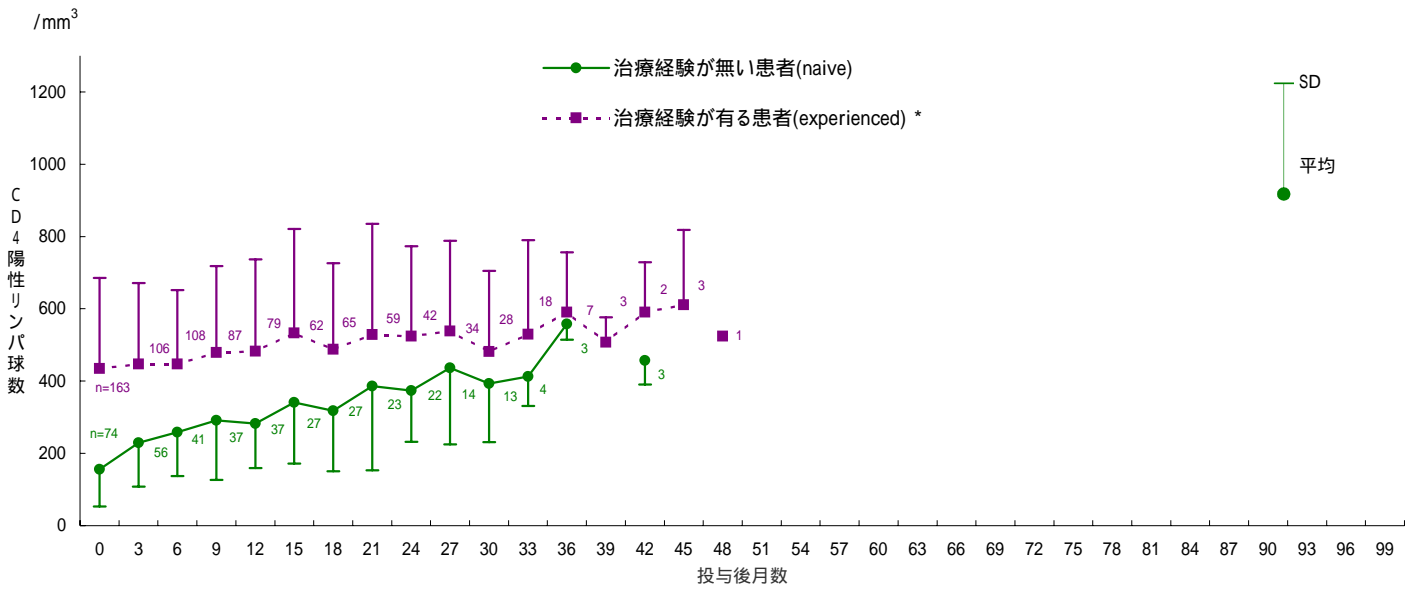
HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

2種類の核酸系逆転写酵素阻害剤の配合剤1剤とプロテアーゼ阻害剤2剤の併用療法である。  
 CD4: 治療経験の無い患者群は増加傾向にあり、治療経験の有る患者群では、CD4値400/mm<sup>2</sup>以上を維持する傾向である。  
 RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

図4. 組合 3

エビピル + ピリアード + ストックリン併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

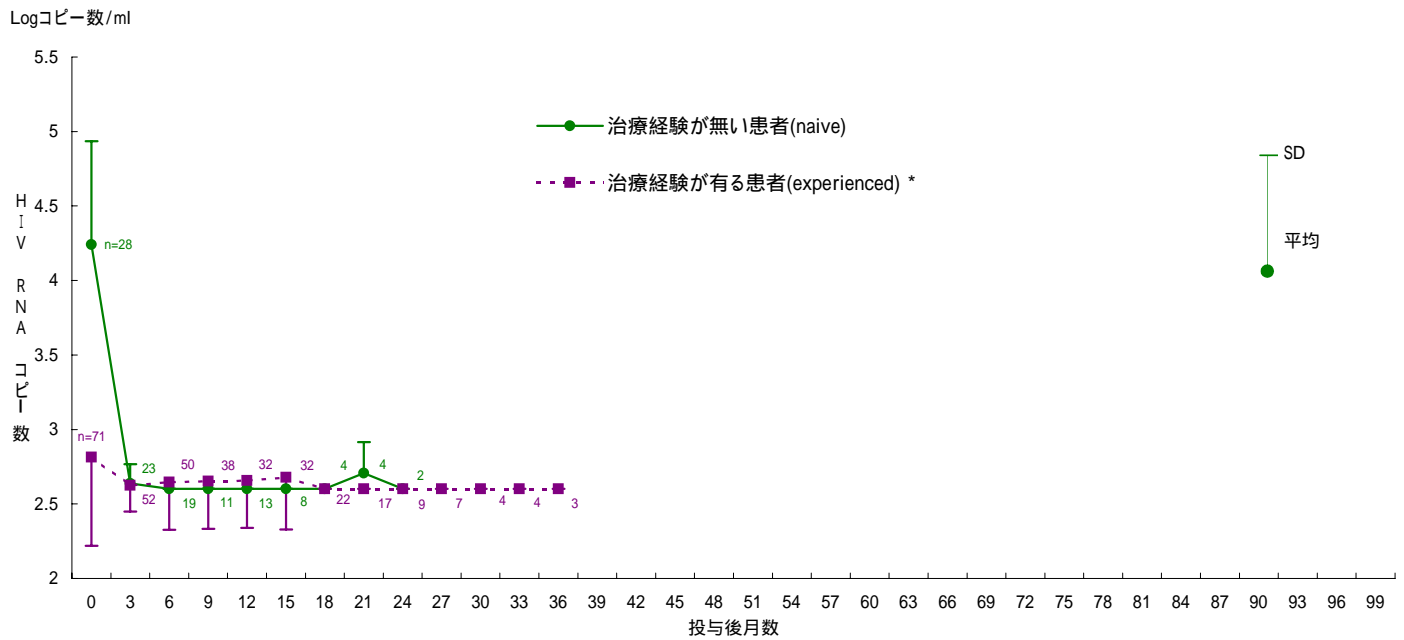
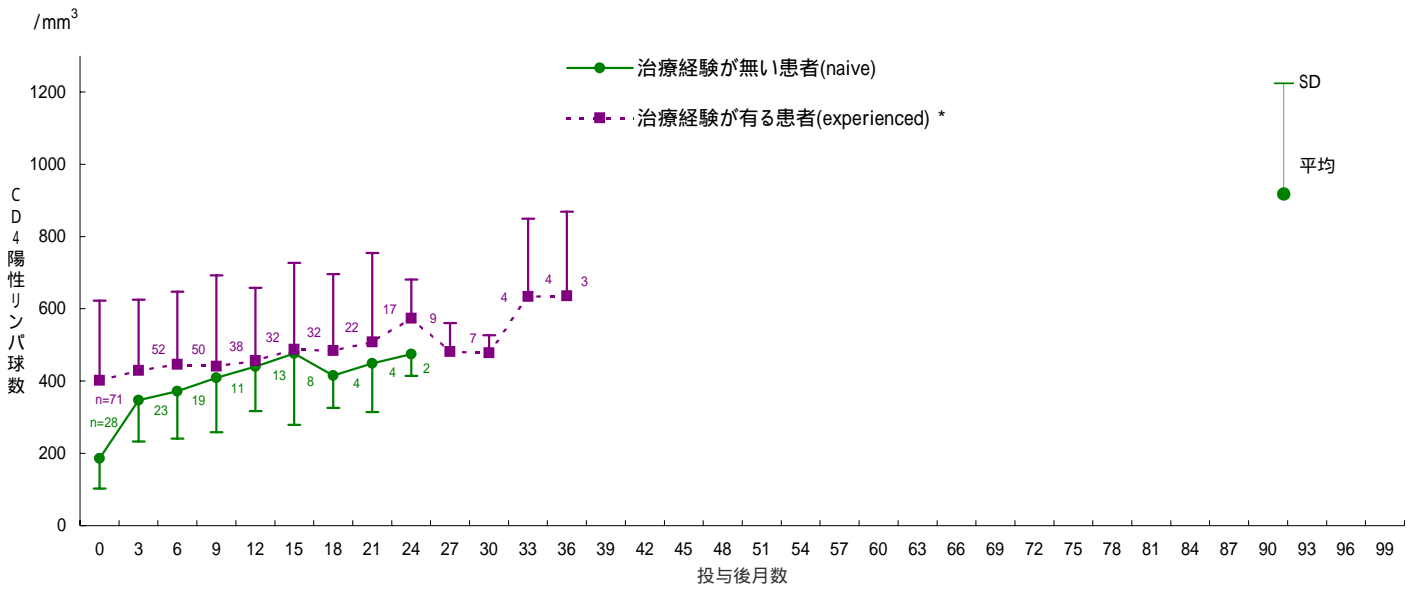
核酸系逆転写酵素阻害剤2剤と非核酸系逆転写酵素阻害剤1剤の併用療法である。

CD4: 治療経験の有無に関わらず治療開始後増加傾向が認められる。治療経験の有る患者群は、400/mm<sup>3</sup>以上を維持する傾向である。

RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

図5. 組合 4

エブジコム + ノーピア + レイアタツ併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

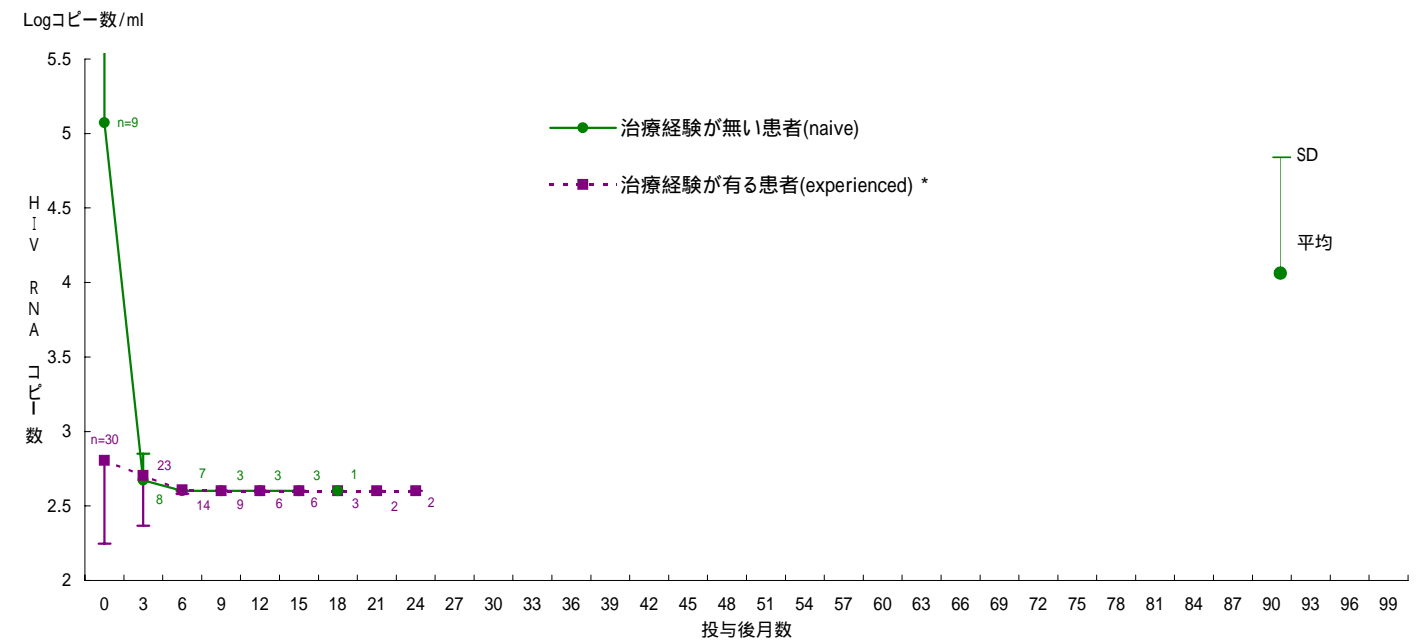
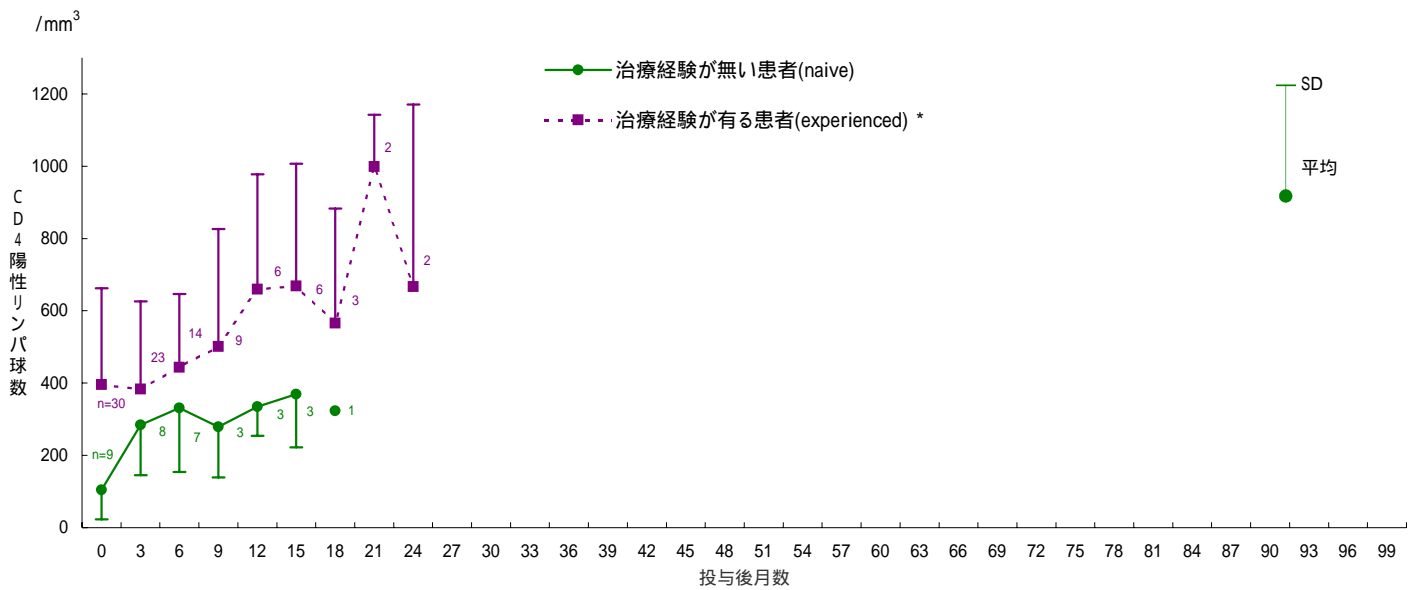
2種類の核酸系逆転写酵素阻害剤の配合剤1剤とプロテアーゼ阻害剤2剤の併用療法である。

CD4: 治療経験の有無に関わらず治療開始後顕著に増加が認められる。治療経験無し群は12ヶ月で400/mm<sup>2</sup>以上を維持する傾向となり、

治療経験有り群も400/mm<sup>2</sup>以上を維持する傾向である。

RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

ツルバダ + カレトラ併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



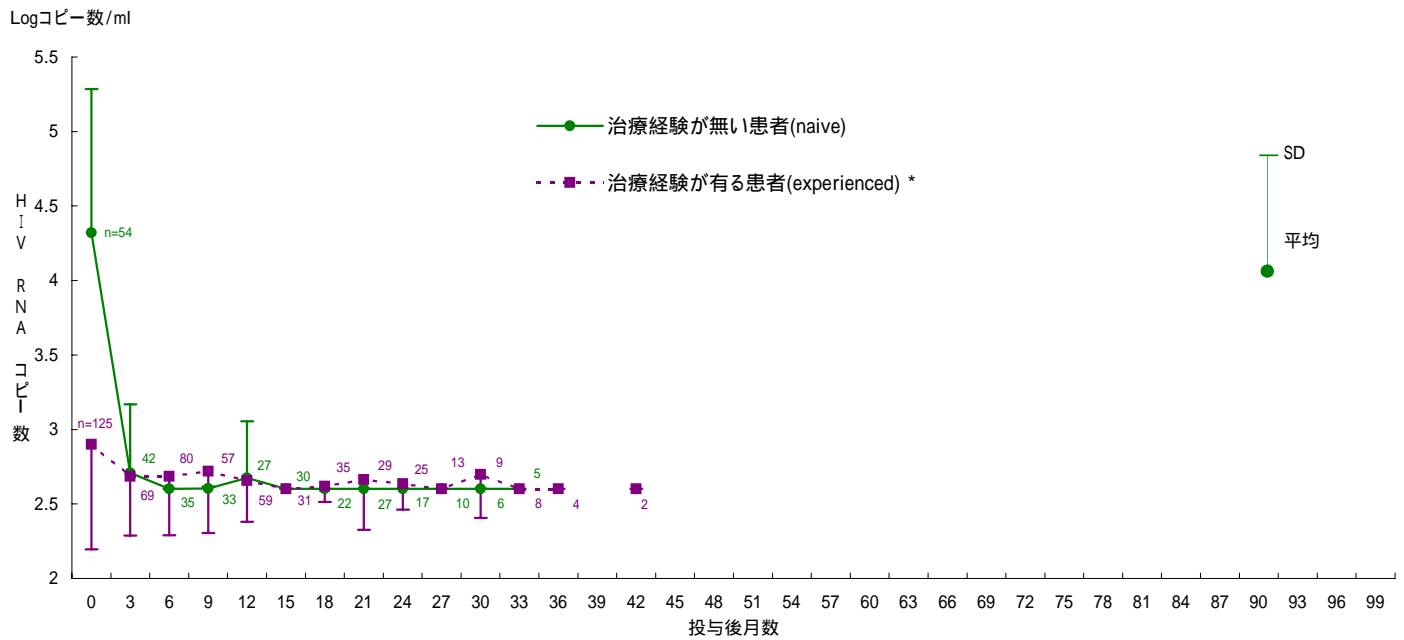
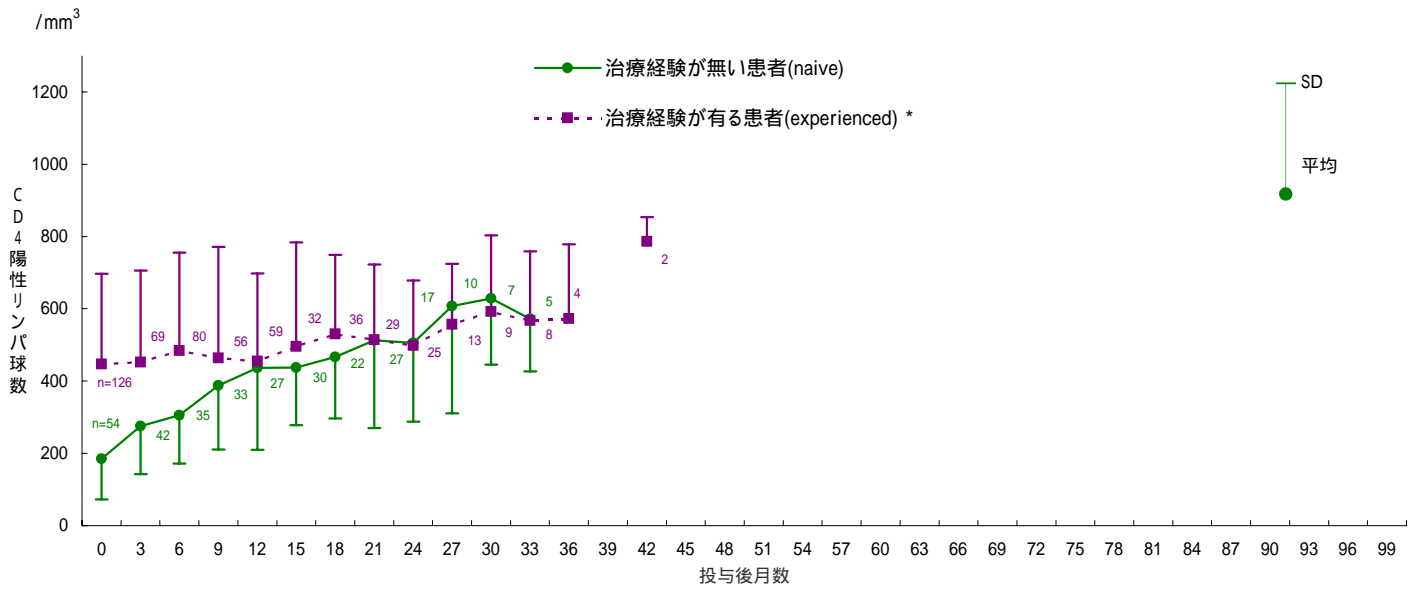
HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

2種類の核酸系逆転写酵素阻害剤の配合剤1剤と2種類のプロテアーゼ阻害剤配合剤1剤の併用療法である。  
 CD4: 症例数は少ないが、投与後顕著の増加傾向を示す。治療経験無有り群は、400/mm<sup>2</sup>以上を維持する。  
 RNA: 症例数は少ないが、治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

図7. 組合 6

エビピル + ビリアード + ノーピア + レイアッツ併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。

HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。

\* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

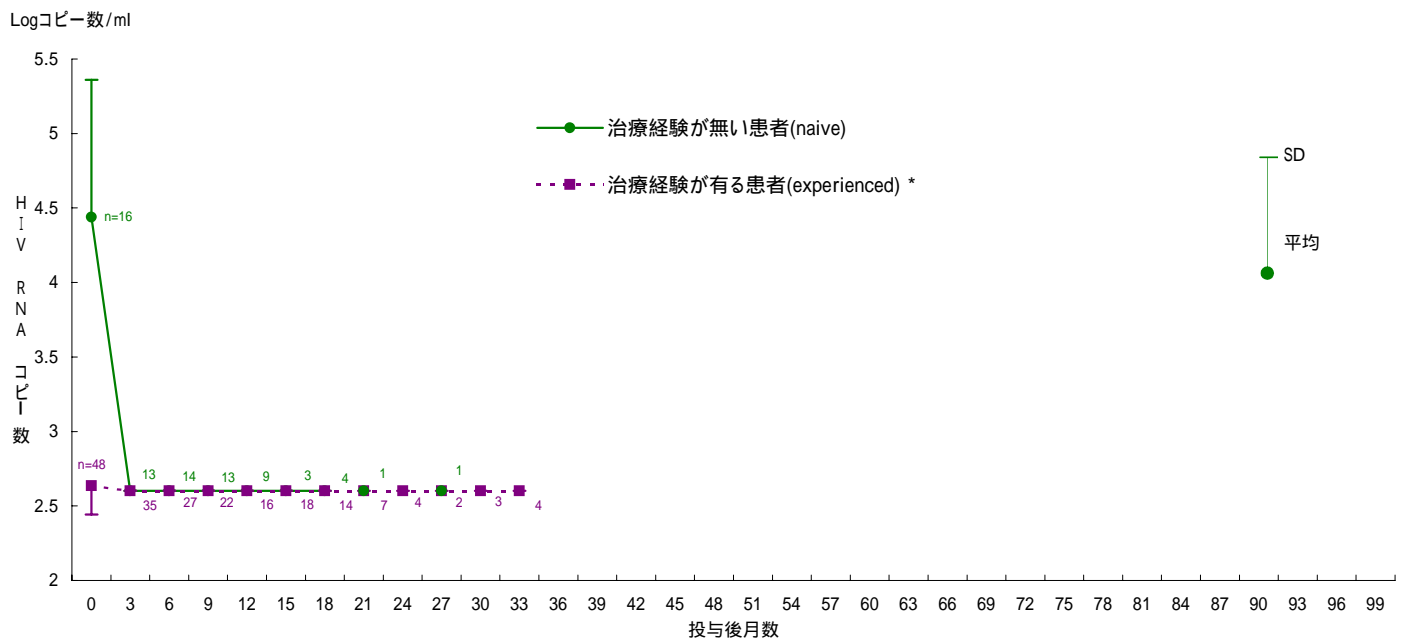
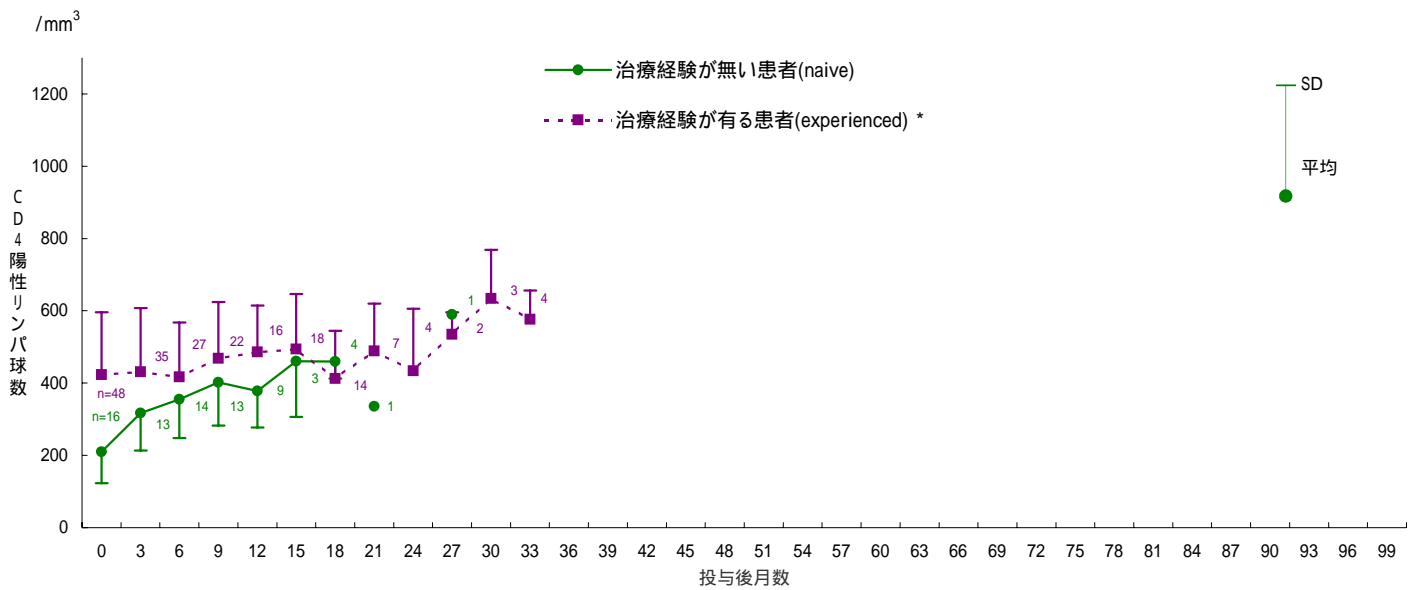
核酸系逆転写酵素阻害剤2剤とプロテアーゼ阻害剤2剤の併用療法である。

CD4: 治療経験の有無に関わらず治療開始後増加傾向が認められる。治療経験の有る患者群は、400/mm<sup>2</sup>以上を維持する傾向である。

RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

図8. 組合 7

エブジコム + ストックリン併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



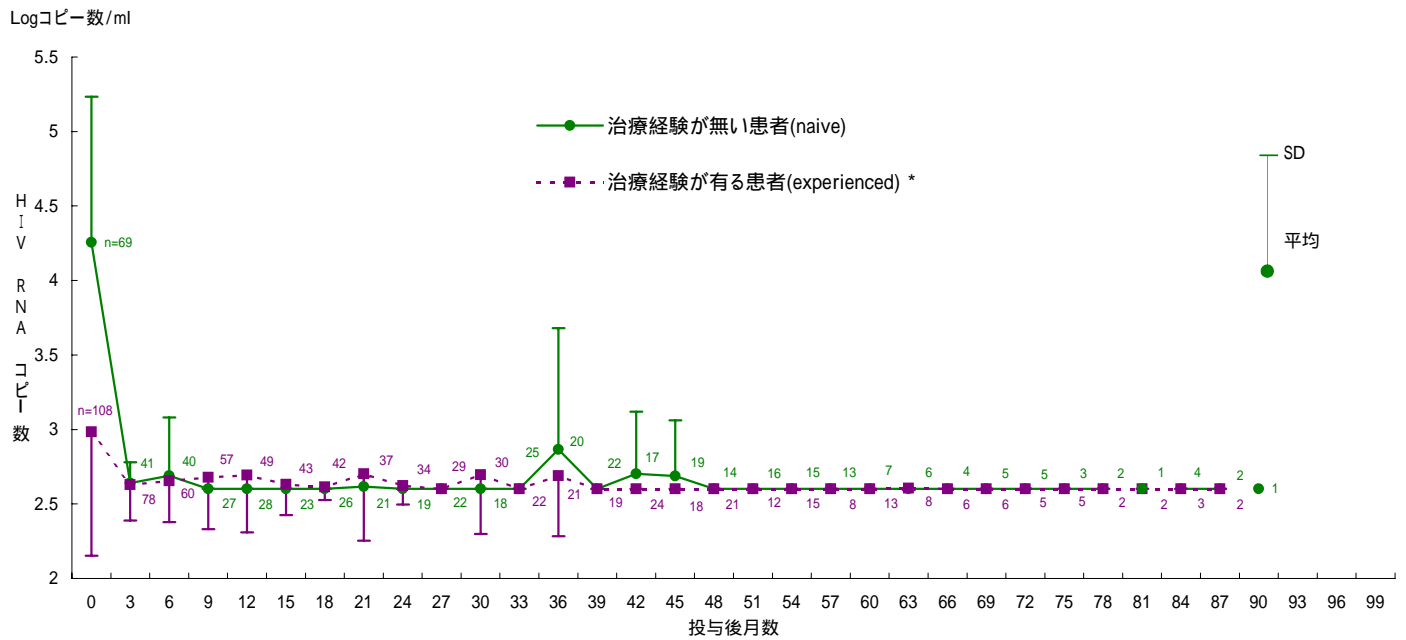
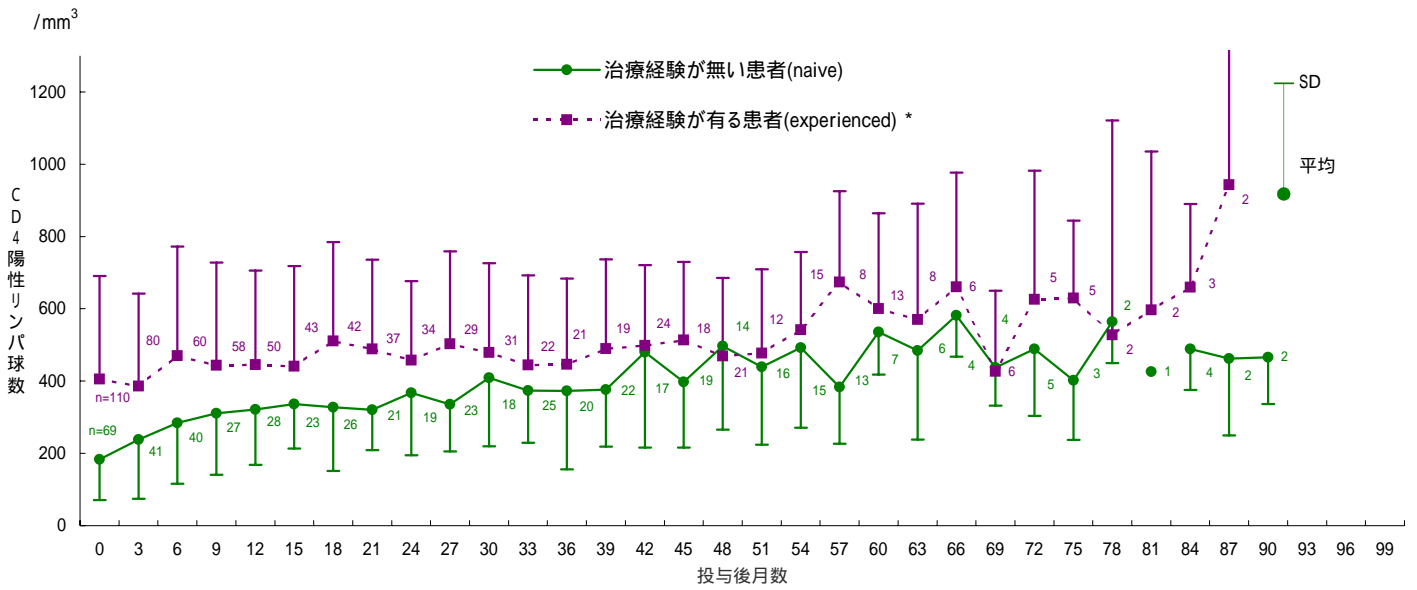
HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

2種類の核酸系逆転写酵素阻害剤の配合剤1剤と非核酸系逆転写酵素阻害剤1剤の併用療法である。  
 CD4: 症例数は少ないが、投与後増加傾向を示す。治療経験無有り群も数ヶ月で400/mm<sup>2</sup>以上に戻る傾向にある。  
 RNA: 症例数は少ないが、治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。



レトロビル + エビビル + ストックリン併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。

HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。

\* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

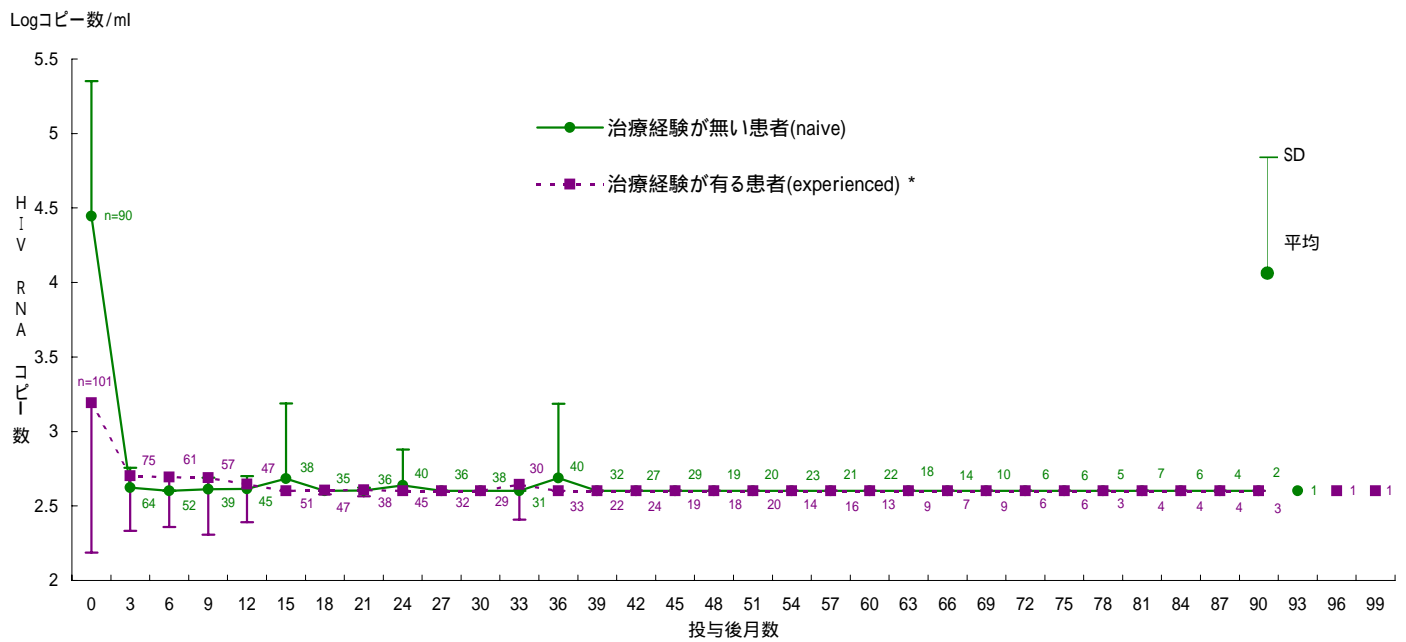
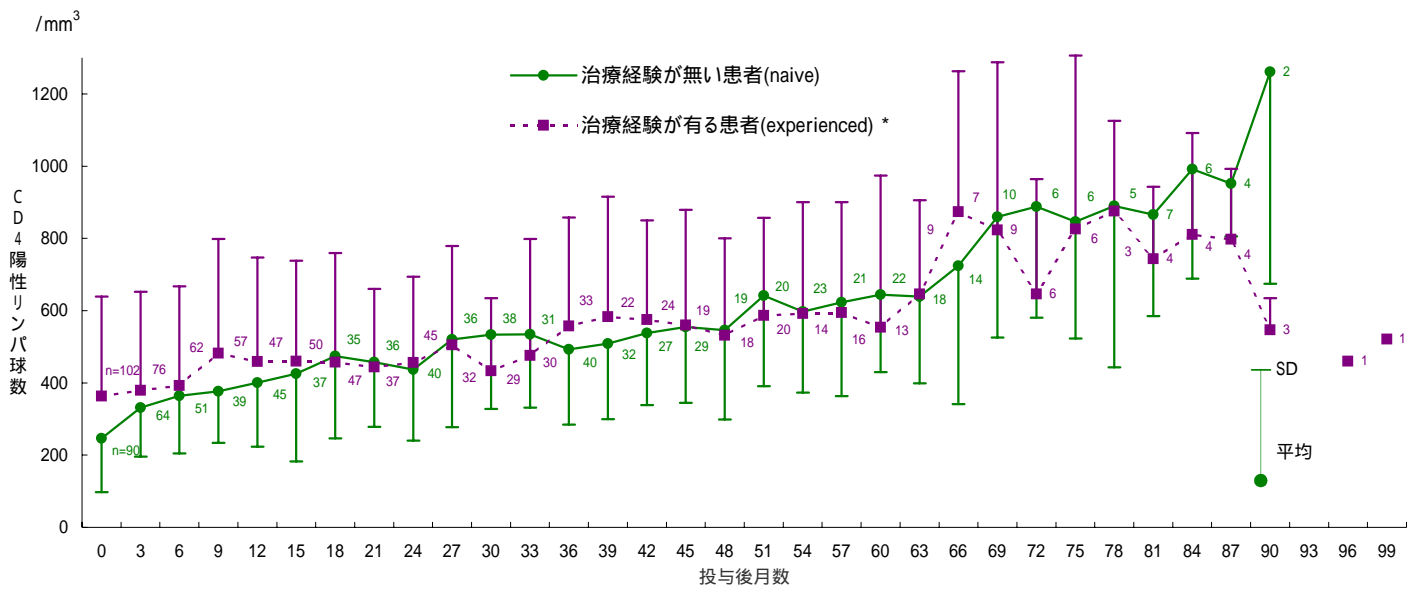
【評価及び考察】

核酸系逆転写酵素阻害剤2剤と非核酸系逆転写酵素阻害剤1剤の併用療法である。

CD4: 治療経験の無い患者群は増加傾向にあり、治療経験の有る患者群もCD4値400/mm<sup>2</sup>以上を維持する傾向である。

RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

コンビル+ストックリン併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移

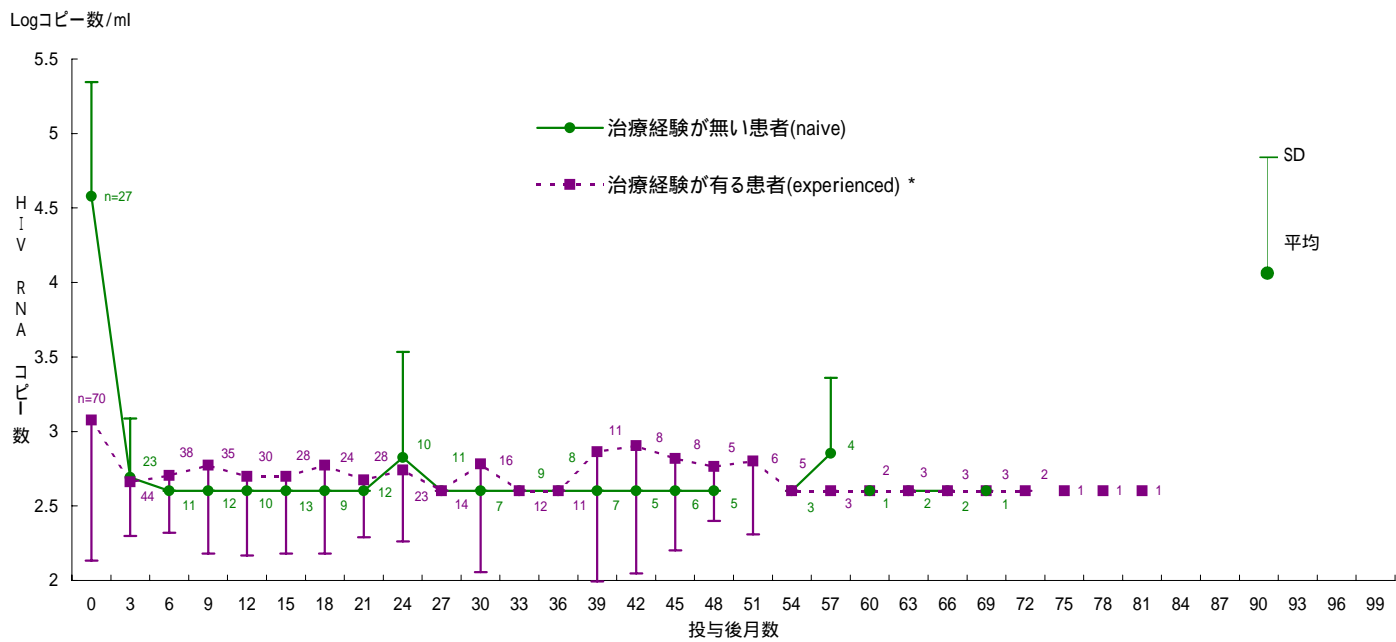
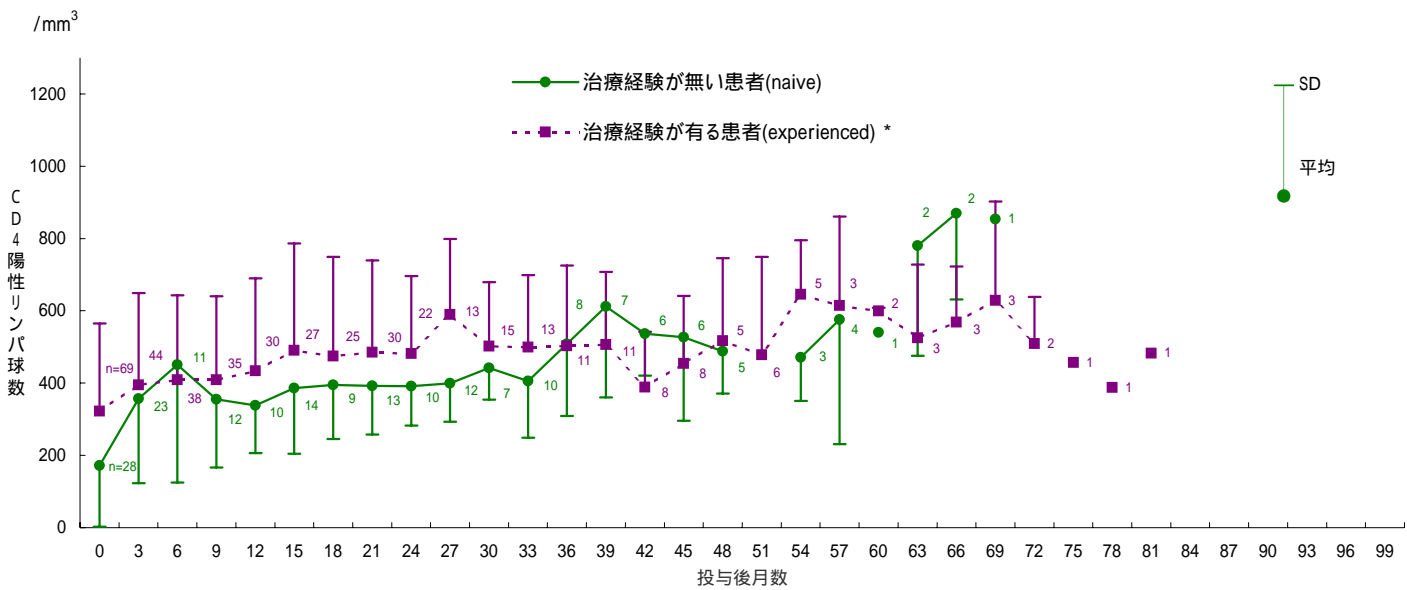


HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

2種類の核酸系逆転写酵素阻害剤の配合剤1剤と非核酸系逆転写酵素阻害剤1剤の併用療法である。(組合せ8と同成分)  
 CD4: 治療経験の無い患者群は増加傾向にあり、治療経験の有る患者群もCD4値400/mm<sup>2</sup>以上を維持する傾向である。  
 RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

レトロビル + エビビル + カレトラ併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



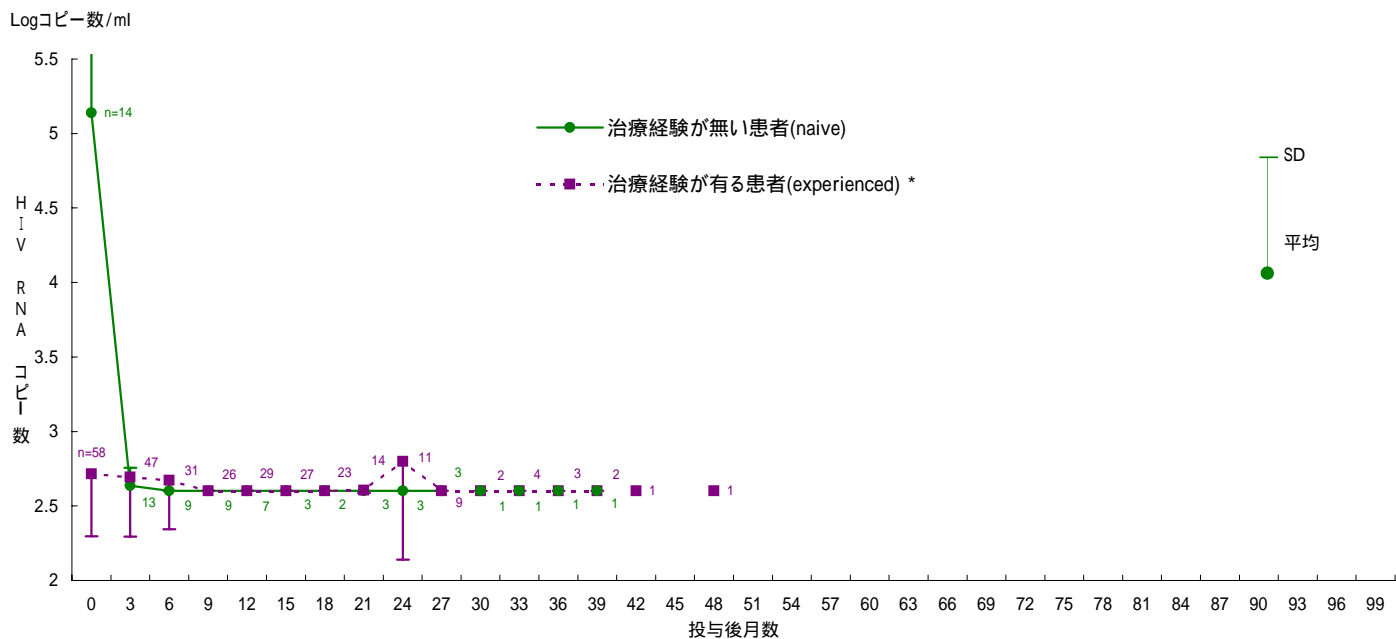
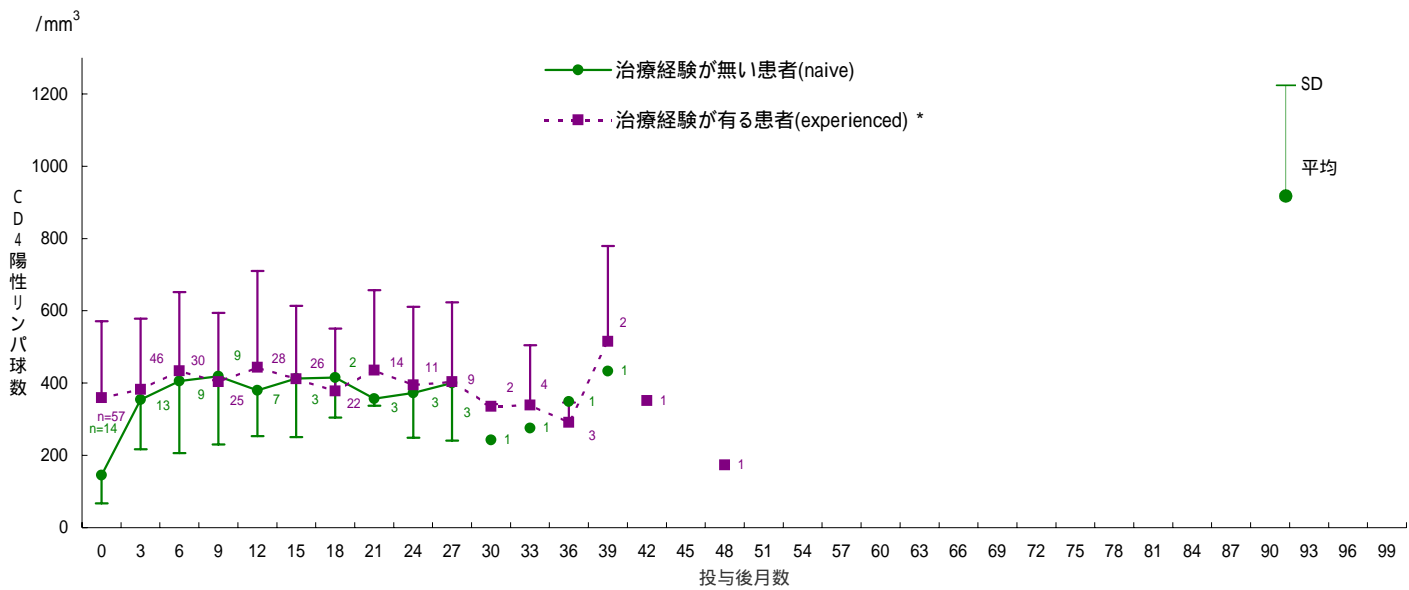
HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

核酸系逆転写酵素阻害剤2剤と2種類のプロテアーゼ阻害剤配合剤1剤の併用療法である。  
 CD4: 治療経験の有無に関わらず治療開始後増加傾向が認められる。治療経験無有群とも400/mm<sup>2</sup>以上を維持する傾向である。  
 RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もない。治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向にはあるが、多少不安定。

図12. 組合 12

エビピル + ザリアジェン + カレトラ併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



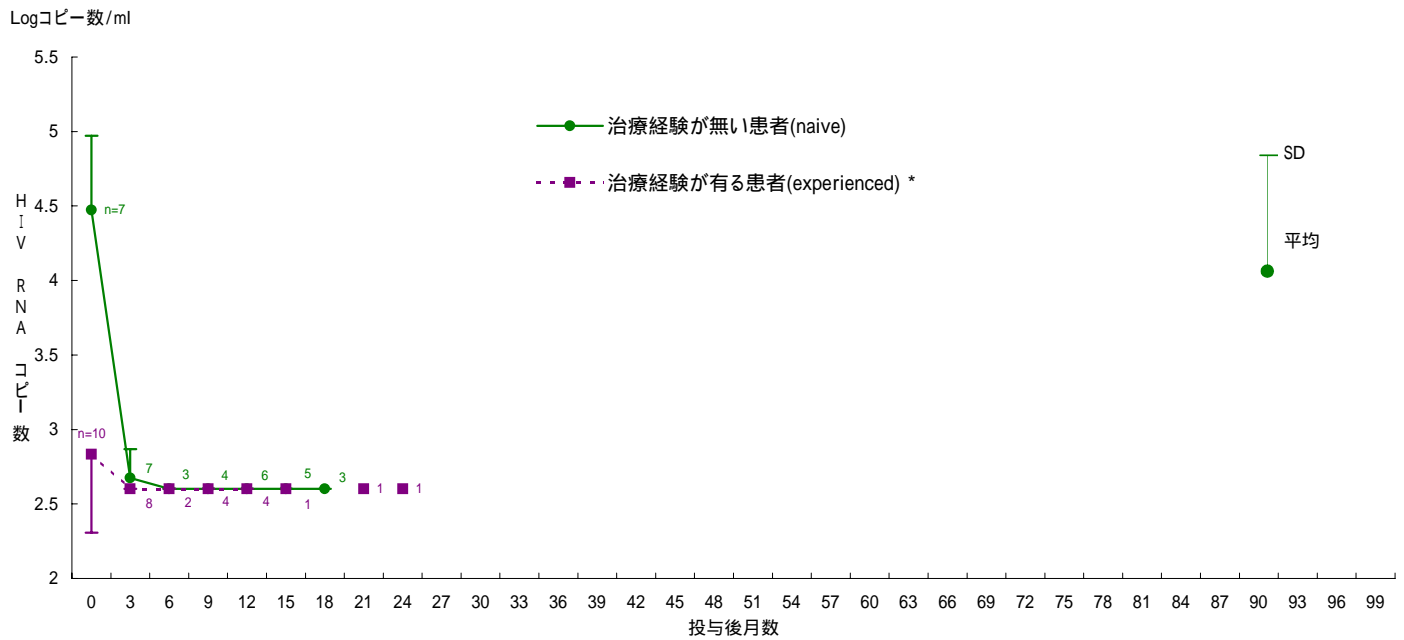
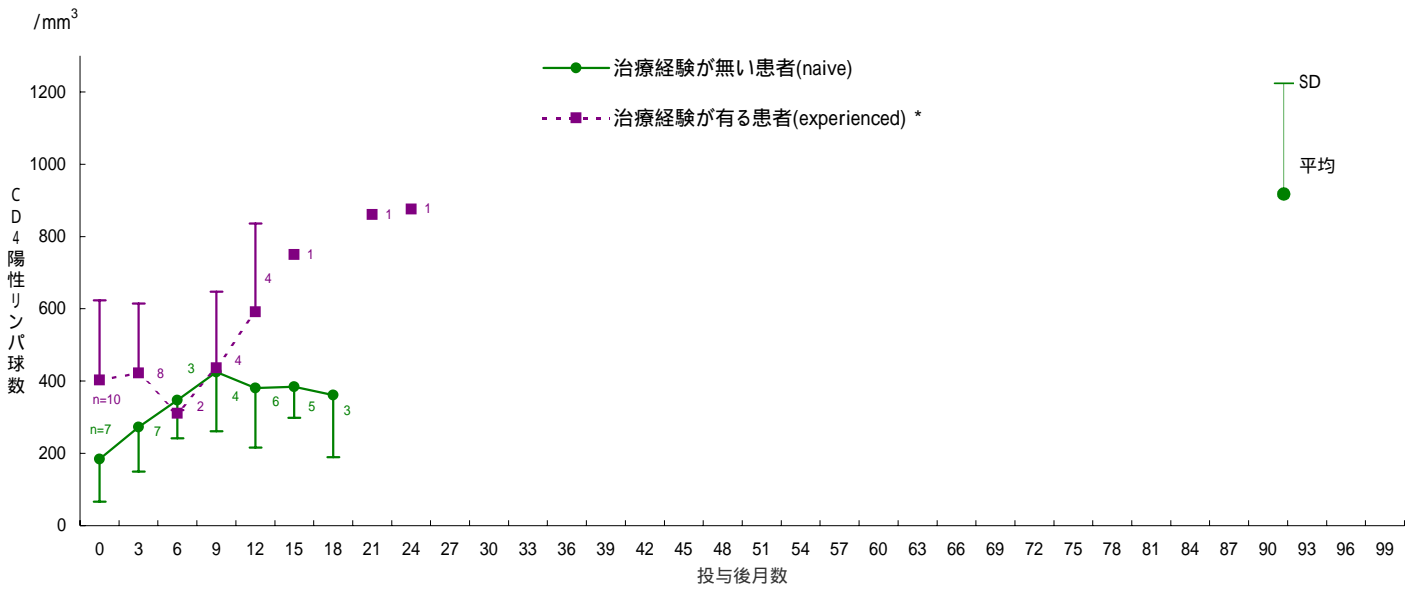
HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

核酸系逆転写酵素阻害剤2剤と2種類のプロテアーゼ阻害剤配合剤1剤の併用療法である。  
 CD4: 症例数は少ないが、治療経験の無い患者群では治療開始後は顕著に増加傾向が認められる。治療経験の有る患者群も概ね400/mm<sup>2</sup>以上を維持する傾向である。  
 RNA: 治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

図13. 組合 17

ツルバダ + ノーピア + レクシヴァ併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



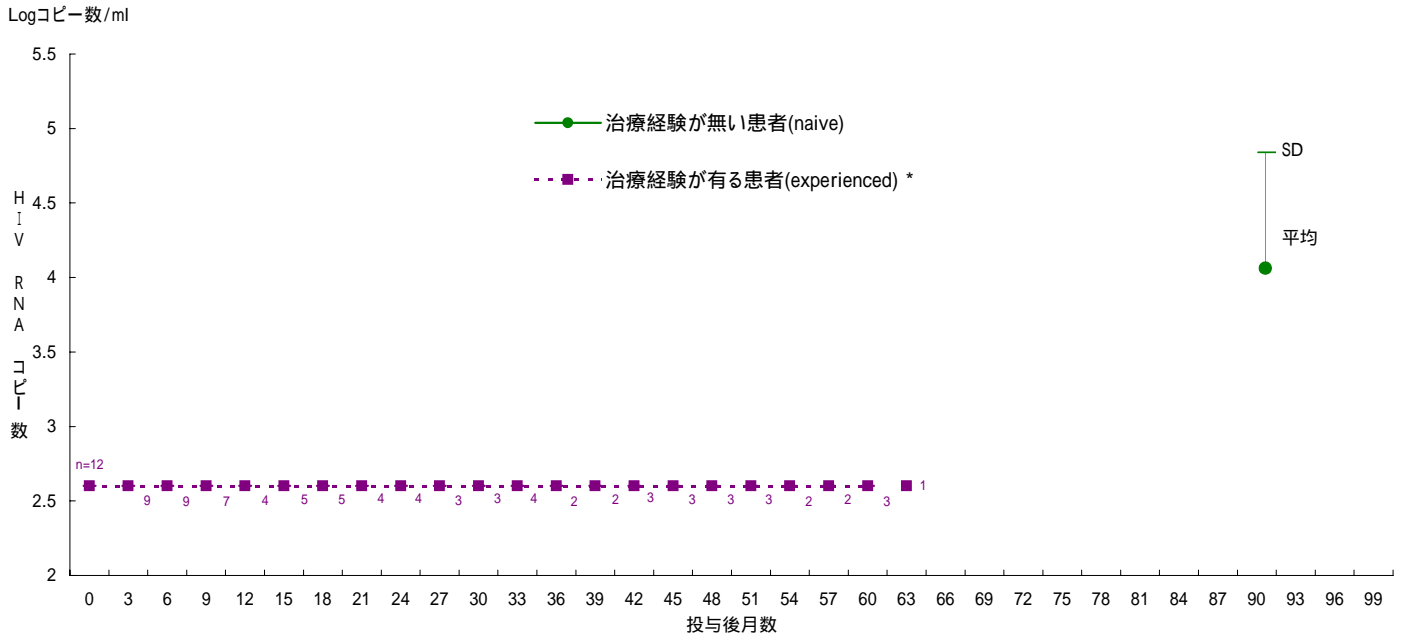
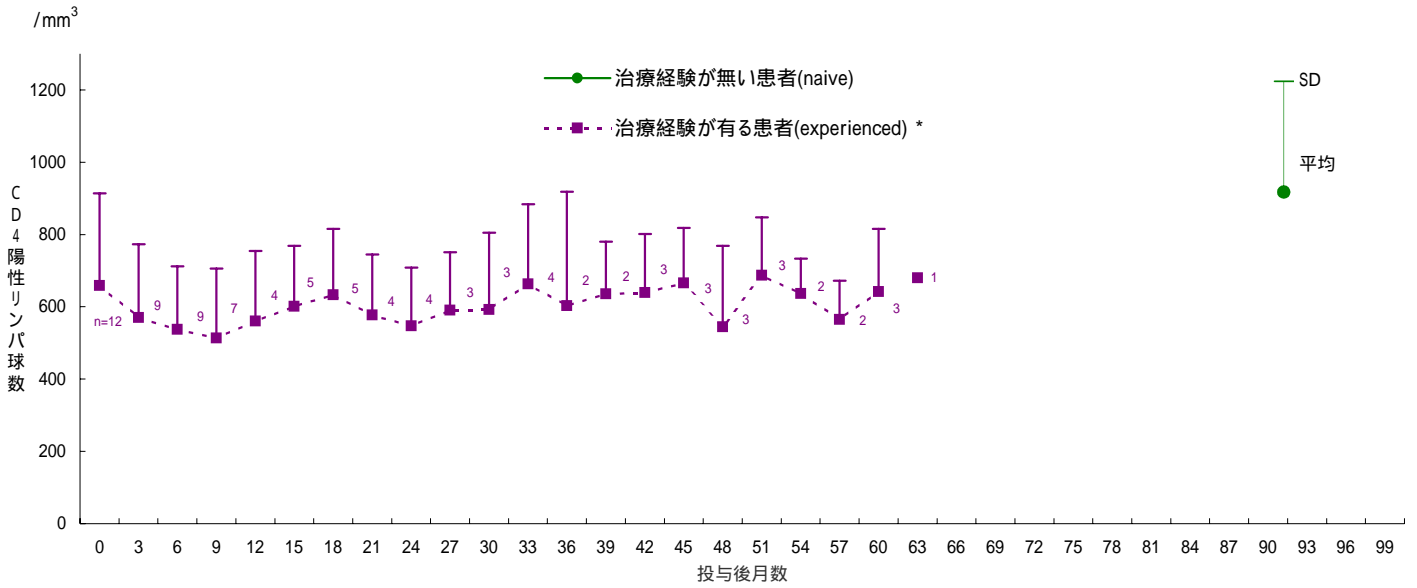
HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

2種類の核酸系逆転写酵素阻害剤の配合剤1剤と2種類のプロテアーゼ阻害剤の併用療法である。  
 CD4: 症例数は少ないが、治療経験無有り群とも顕著に増加傾向が認められる。  
 RNA: 症例数は少ないが、治療経験の無い患者群は投与開始後顕著に抑制し、以後のコピー数の増加傾向もなく、治療経験の有る患者群も変薬時よりコピー数の増加傾向は認められない。

図14. 組合 25

エビビル + ザイアジェン + ピラミューン併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



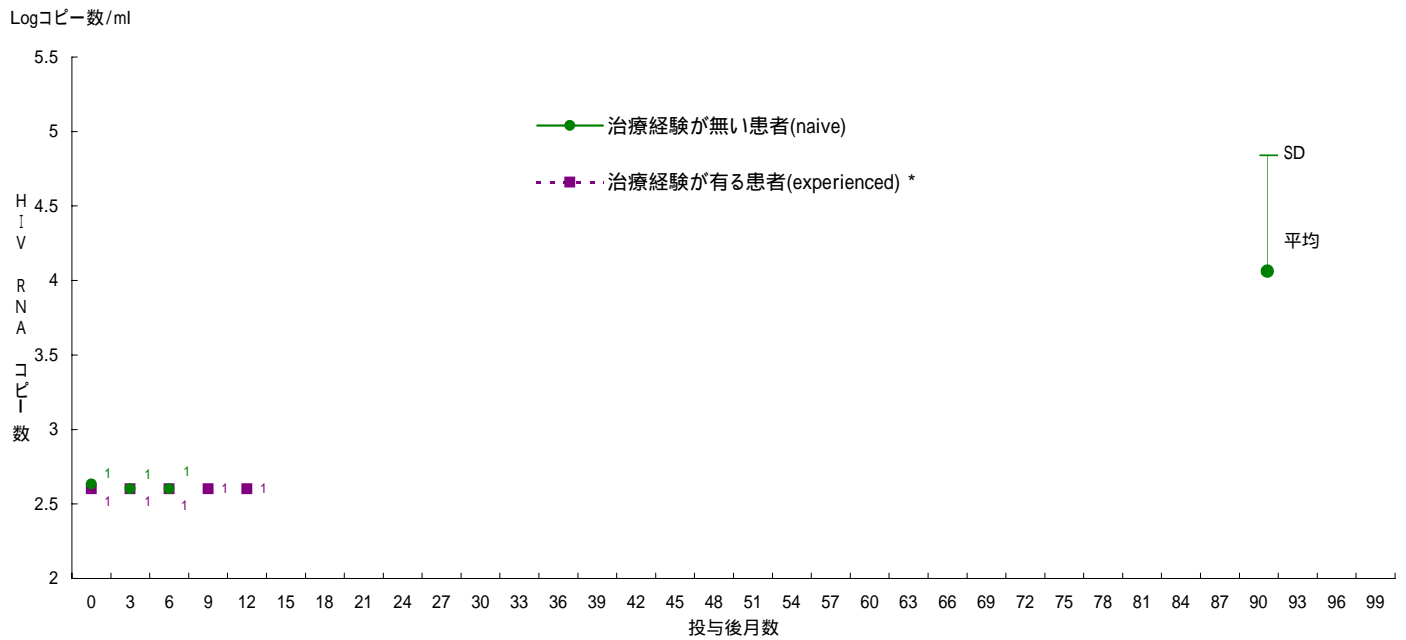
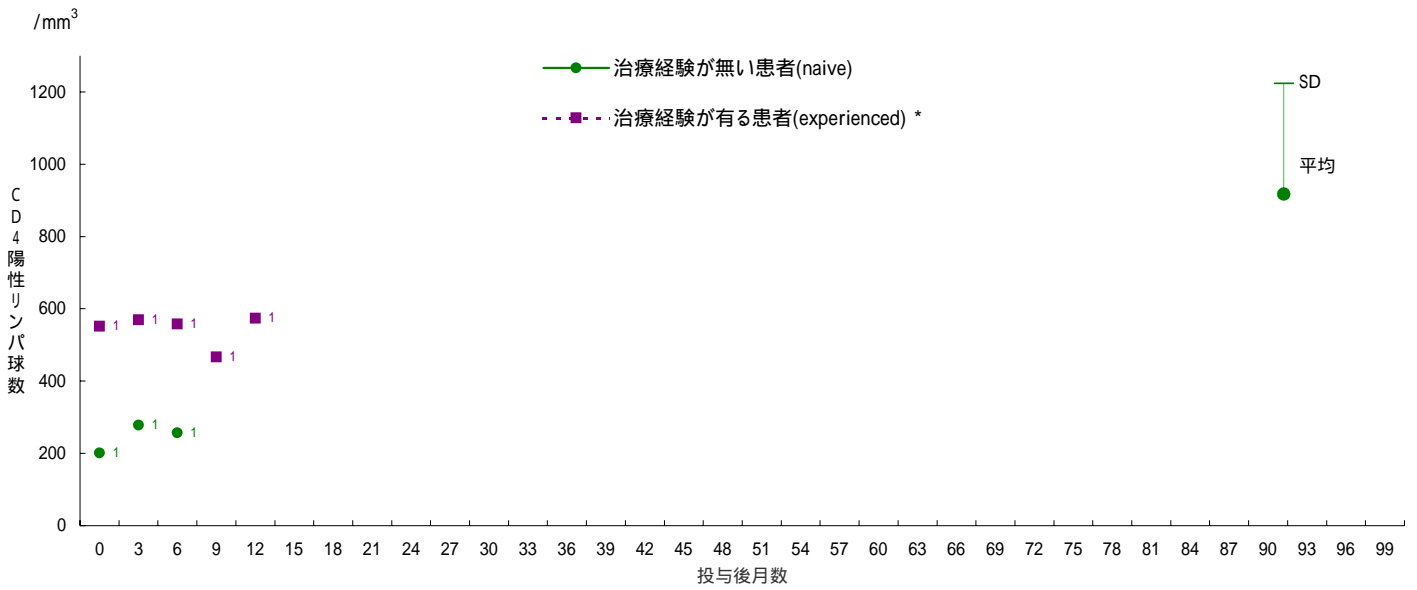
HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

核酸系逆転写酵素阻害剤2剤と非核酸系逆転写酵素阻害剤1剤の併用療法である。  
 CD4: 治療経験の有る患者群のみで症例数は少ないが、400/mm<sup>2</sup>以上を維持した。(以後2例300以下となった。)  
 RNA: 治療経験の有る患者群のみで症例数は少ないが、コピー数の増加傾向は認められない。

図15. 組合 51

ピリアード+エムトリバ+ストックリン併用例のCD4数及びHIV-RNAコピー数の推移



HIV-RNA コピー数の400未満については便宜上一律399として作表した。  
 HIV-RNAコピー数のMean ± S.D.は、対数変換後算出を行った。  
 \* 治療経験が有る患者は、治療開始時の併用療法の薬剤が1剤でも変更された症例を採用した。

【評価及び考察】

核酸系逆転写酵素阻害剤2剤と非核酸系逆転写酵素阻害剤1剤の併用療法である。  
 症例数が少ないため、CD4及びHIV-RNA量の評価及び考察は行っていない。